

新上五島町滞在型観光推進計画

長崎県新上五島町

平成 30 年 2 月

目次

1. 計画策定の方針.....	1
(1) 計画策定の背景・目的	1
(2) 計画の位置づけ	1
(3) 計画の期間.....	2
2. 新上五島町の現況.....	3
(1) 新上五島町の概要	3
(2) 新上五島町における観光動向.....	5
(3) 新上五島町を訪れる観光客の実態・ニーズ	6
(4) 国内の観光の動向.....	13
(5) 世界遺産登録を目指す「頭ヶ島の集落」をはじめとするカトリック教会関連の受入体制の課題、 改善の方向性.....	17
(6) 観光関連団体・事業者の現状並びに意向	20
(7) 新上五島町のこれまでの取組、及び今後の取組予定	25
3. 新上五島町の観光ビジョン	27
(1) SWOT 分析	27
(2) 新上五島町の観光振興の方向性と施策	28
4. 新上五島町の滞在型観光の現況	29
(1) 滞在プランの状況	29
(2) 滞在プランの実績	33
(3) 滞在プランに対する利用者等の評価	36
(4) 滞在プランの課題	38
5. 滞在プラン推進計画.....	40
(1) 滞在プランの改善の方向性	40
(2) コンセプト.....	41
(3) ターゲット.....	41
(4) 施策とプロジェクト	45
6. 観光客受入体制.....	50
7. アクションプラン.....	51
8. 目標の設定と管理.....	52
(1) 目標の設定.....	52
(2) 目標の管理.....	54
9. 資料編.....	55
(1) 新上五島町滞在型観光推進計画作成委員会	55
(2) 調査資料等.....	57
(3) 用語集	74

1. 計画策定の方針

(1) 計画策定の背景・目的

近年、旅行者のニーズは、旧来の「観光スポット」を巡るツアーから、「まちを歩いてその地域にしかない自然や歴史・文化、食など地域の暮らしや雰囲気、すなわち地域資源を五感で多様に楽しむ観光」へと急激に変化しています。この旅行者のニーズ変化に対応するためには、住民が自らの地域に誇りを持って主体的に「観光」を捉え直し、ここにしかない「地域資源」を本物として磨き、体験プログラムや着地型旅行商品として提供する必要があります。

一方、長崎と天草地方においては、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界遺産登録の期待が高まっています。世界遺産に登録されることにより本町においても観光客数の大幅な増加が期待されますが、増加した観光客に対して世界遺産以外の観光の魅力も提供していかなければ、宿泊者数や観光消費額の増加に繋がりませんし、世界遺産への一過性の訪問に終わってしまったりピーター化しないことも懸念されます。また、世界遺産登録に伴う観光客の急増に対応できるように、宿泊施設や交通インフラ、情報発信等の受入環境や受入体制を整えると同時に、滞在プランの開発等を行い世界遺産構成資産以外の観光スポットへの回遊・分散・平準化を図っておかなければ、構成資産に集中した観光客への対応が追い付かず逆にマイナスイメージを持たれることにも繋がりがねません。

旅行者のニーズの変化に対応し、世界遺産登録等の追い風を活かし、宿泊促進及び交流人口の拡大を図るため、本町に「もう一泊」したいと旅行者に思わせるような滞在時間を延ばす効果のある、島の素材を活用した滞在プランを推進し、世界遺産登録を見据えた観光客受入体制の整備を推進する道筋を示すために本計画を策定します。

(2) 計画の位置づけ

本計画は、2015年（平成27年）3月に策定した「第2次新上五島町総合計画」及び2016年（平成28年）3月に策定した「新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に沿ったものとし、観光分野の短期的・中期的な個別計画として策定します。

第2次新上五島町総合計画では、「将来像」として「つばき香り 豊かな海と歴史文化を育む 自立するしま」を掲げており、また、「基本姿勢」のうち観光に関連したものとしては「基本姿勢3にぎわいを創る「交流のしま」」を掲げています。

第2次新上五島町総合計画

- ・計画期間：平成27年度から平成36年度まで（10年間）
- ・観光関連の政策：「3-1 魅せる観光交流のしまづくり」
- ・成果指標：
 - ・観光客宿泊数：78,854人（H23）⇒90,000人（H31）
 - ・観光消費額：3,406百万円（H23）⇒4,087百万円（H31）
 - ・離島体験等交流者数：3,266人（H23）⇒4,000人（H31）

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略

- ・計画期間：平成27年度から平成31年度まで（5年間）
- ・観光関連の基本目標：「4 地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる」
- ・数値目標：
 - ・観光消費額：4,560百万円（H26）⇒5,388百万円（H31）

個別計画

新上五島町 滞在型観光推進計画

（3）計画の期間

本計画の計画期間は、2018年度（平成30年度）から2022年度までの5年間とします。

2. 新上五島町の現況

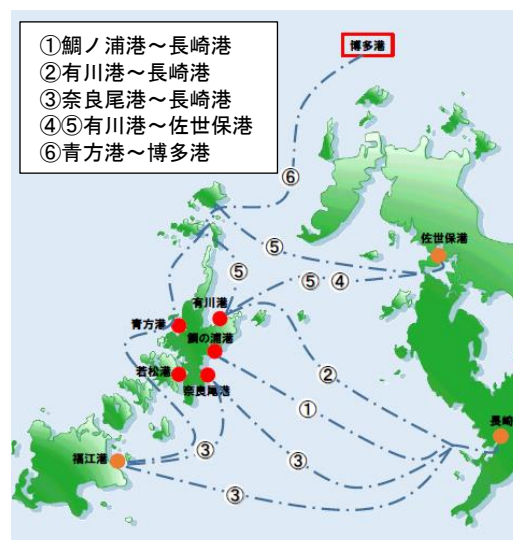
(1) 新上五島町の概要

1) 新上五島町の概要

本町は、九州の最西端の、長崎港から西方に約 77 km 五島灘を隔てた東シナ海上にあり、五島市と小値賀町の中に位置しています。

本土から本町への交通手段としては、フェリーや高速船の航路が、長崎航路、佐世保航路、博多航路と運航しており、航路数は多いと言えます。

2016 年（平成 28 年）4 月に成立した「有人国境離島地域の保全及び特定有人国境離島地域に係る地域社会の維持に関する特別措置法」（以下「有人国境離島法」）における特定有人国境離島の一つとして位置づけられていることから、今後の観光客数・観光消費額などの増加が期待されている、長崎県の重要な観光地であると言えます。



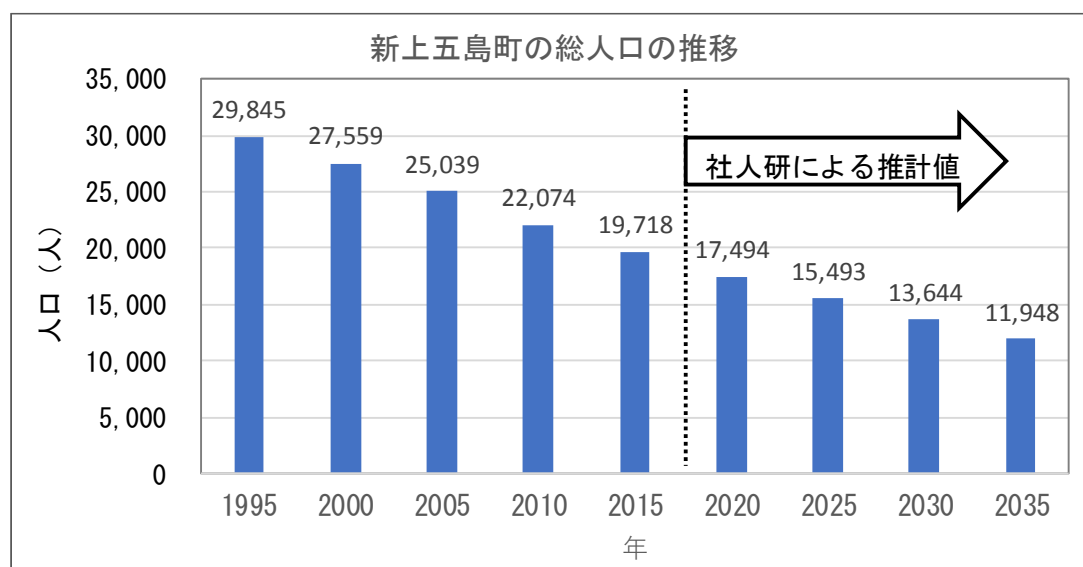
出典：新上五島町観光アンケート調査・分析業務報告書

2) 人口の動向

①総人口

本町の総人口は 2015 年（平成 27 年）時点で 19,718 人となっており、1995 年（平成 7 年）の 29,845 人の 66.1% となっています。また、国立社会保障・人口問題研究所が公表した人口推計によると、本町の人口は今後も減少が続き、2035 年には 11,948 人になると推計されています。これは、2015 年（平成 27 年）の 19,718 人の 60.6% にあたります。

■新上五島町の総人口の推移



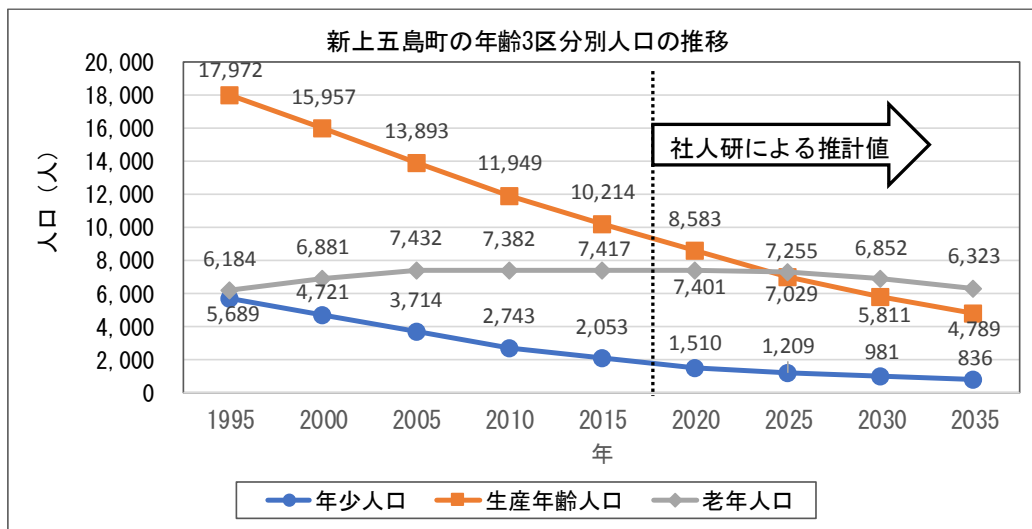
出典：国勢調査（2015 年まで）、国立社会保障・人口問題研究所（2020 年以降）

②年齢 3 区分別人口

本町の年齢 3 区分別人口は、2015 年（平成 27 年）時点において、年少人口が 2,053 人、生産年齢人口が 10,214 人、老年人口が 7,417 人となっています。2015 年（平成 27 年）の生産年齢人口 10,214 人は、1995 年（平成 7 年）の生産年齢人口 17,972 人の 56.8%にあたります。

国立社会保障・人口問題研究所が公表した人口推計によると、本町の生産年齢人口は今後も減少が続き、2035 年には 4,789 人（2015 年の 46.9%）にまで減少すると推計されています。

■新上五島町の年齢 3 区分別人口の推移

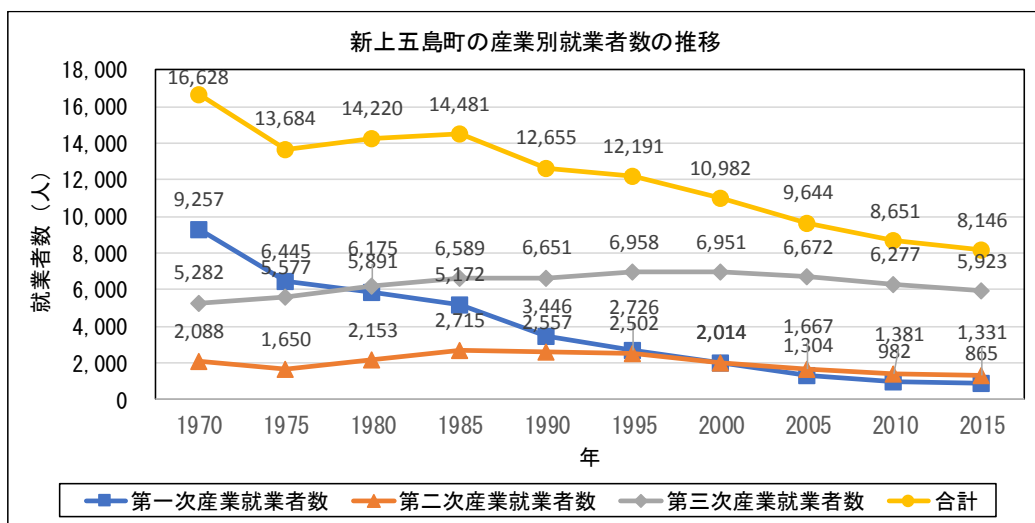


出典：国勢調査（2015 年まで）、国立社会保障・人口問題研究所（2020 年以降）

③産業別就業者数

本町の就業者数は、2015 年（平成 27 年）時点で 8,146 人となっており、1970 年（昭和 45 年）と比較するとおよそ半減しています。第一次産業就業者数の減少が特に顕著であり、1970 年（昭和 45 年）の 10%以下となっています。

■新上五島町の産業別就業者人口の推移



出典：国勢調査

(2) 新上五島町における観光動向

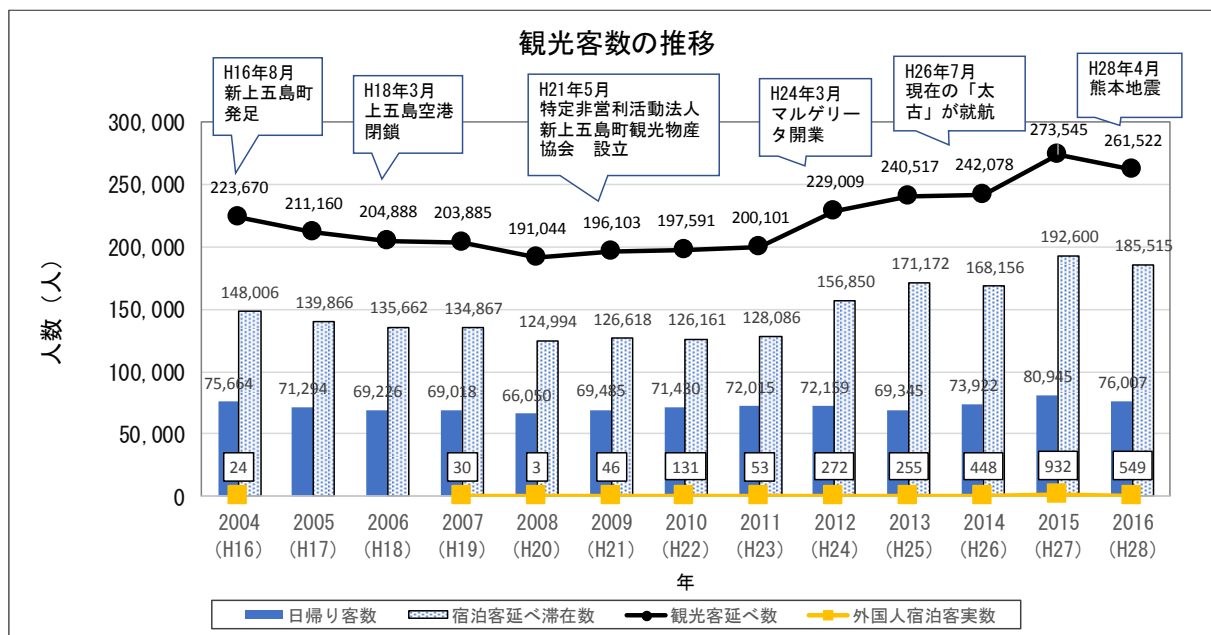
1) 新上五島町の観光客数

本町の観光客延べ数は、合併した2004年(平成16年)以降はやや減少傾向にありましたが、2011年(平成23年)以降は上昇に転じ、2015年(平成27年)には273,545人となっています。2016年(平成28年)は、熊本地震の影響もあり、前年比5%減の261,522人となっています。

観光客延べ数は、2011年(平成23年)から2016年(平成28年)にかけて30.7%増加していますが、同期間中の「日帰り客数」の伸び率は5.5%、「宿泊客延べ滞在数」の伸び率は44.8%であることから、「宿泊客延べ滞在数」の伸びが「観光客延べ数」全体の伸びに寄与していることが分かります。

「外国人宿泊客実数」については、2011年(平成23年)の53人から、2015年(平成27年)の932人へと17.6倍に増加しています。

■新上五島町の観光客数の推移

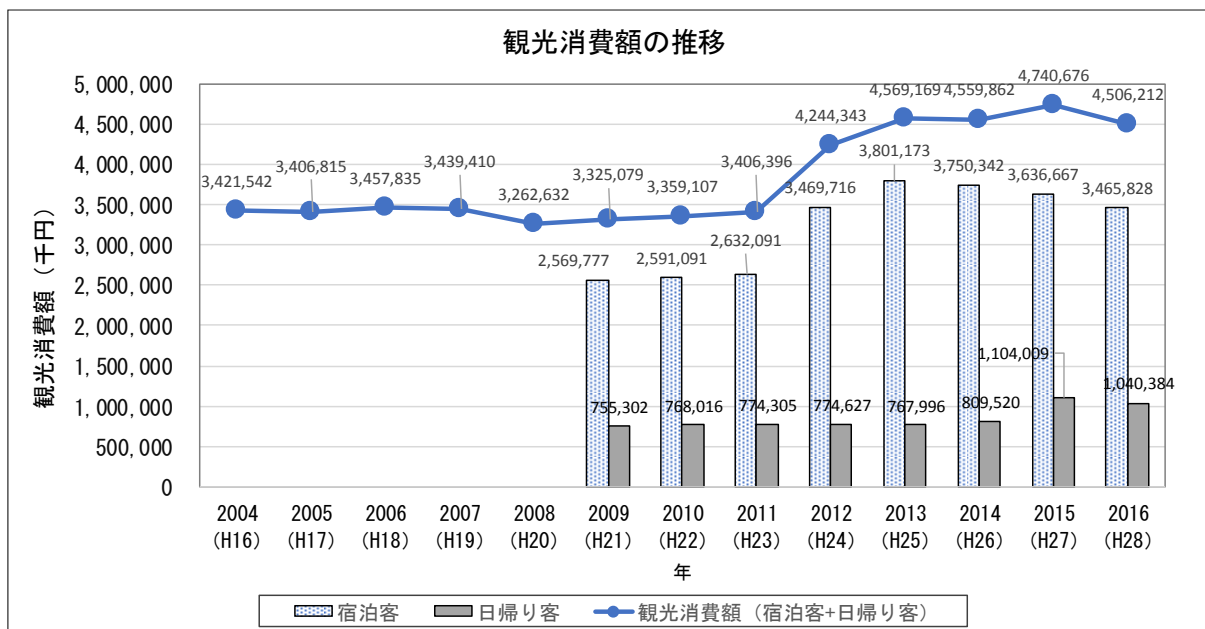


出典：長崎県観光統計

2) 新上五島町の観光消費額

本町の観光消費額は、観光客数の増加に合わせて、2011年（平成23年）以降、増加傾向にあります。「宿泊客」と「日帰り客」の内訳としては、宿泊旅行が約75%を占めています。

■新上五島町の観光消費額の推移



出典：長崎県観光統計

(3) 新上五島町を訪れる観光客の実態・ニーズ

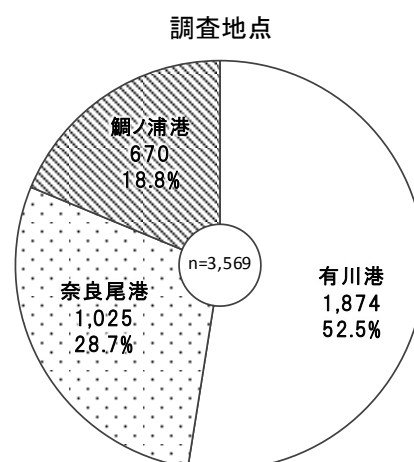
1) 観光客満足度調査（五島列島おもてなし協議会）

「五島列島おもてなし協議会」は、2016年（平成28年）4月～2017年（平成29年）3月にかけて、「観光客満足度調査」を実施し、本町においては延べ3,569の有効回答を獲得しました（五島市：2,769回答、小値賀町：298回答）。それによると、本町への来訪者は、「女性が過半数」、「長崎県内からの来訪が他島と比較して多い」、「幅広い年齢層の来訪がある」といった傾向が見られます。

①調査地点

有川港を離発着地点としている観光客が過半数を占めています。有川港は、佐世保港及び長崎港との間に航路があり、本町の港の中でフェリー・高速船の寄港数が最も多くなっています。奈良尾港、鯛ノ浦港は、いずれも長崎港との航路があります。

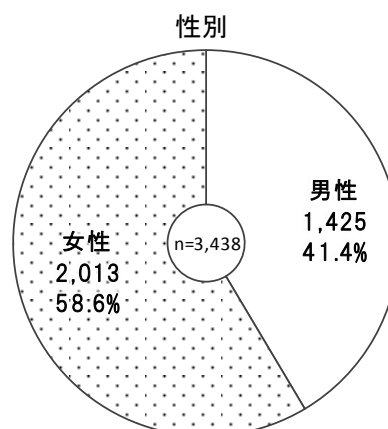
なお、青方港（博多港との間に航路）、若松港（福江港との間に航路）は本調査の調査地点にはなっていません。



②性別

回答者の過半数を女性が占めています。

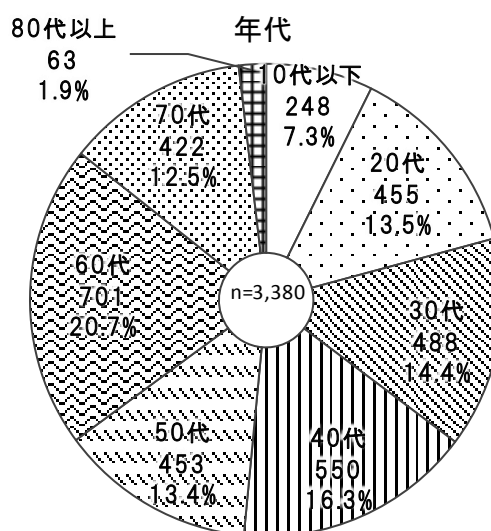
選択肢	件数	比率 (%)
全体	3,438	100.0
男性	1,425	41.4
女性	2,013	58.6



③年代

「60代」が最も多く20%強となっています。「20代」～「50代」、「70代」はいずれも15%前後となっており、世代による偏りは比較的小さい結果となっています。

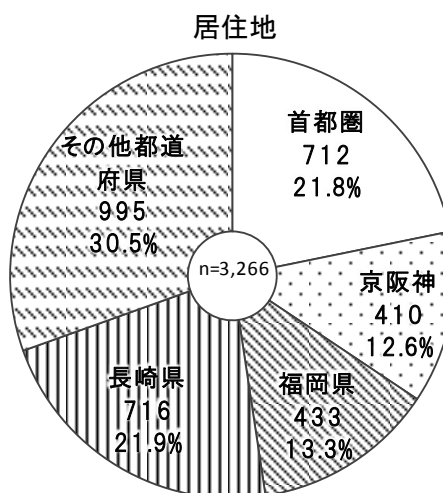
選択肢	件数	比率 (%)
全体	3,380	100.0
10代以下	248	7.3
20代	455	13.5
30代	488	14.4
40代	550	16.3
50代	453	13.4
60代	701	20.7
70代	422	12.5
80代以上	63	1.9



④居住地

長崎県内からの来訪が21.9%と最も多く、他島と比較しても比率が高くなっています（五島市：16.7%、小値賀町：16.8%）。次いで、「首都圏」が21.8%となっており、「福岡県」の13.3%よりも多くなっています

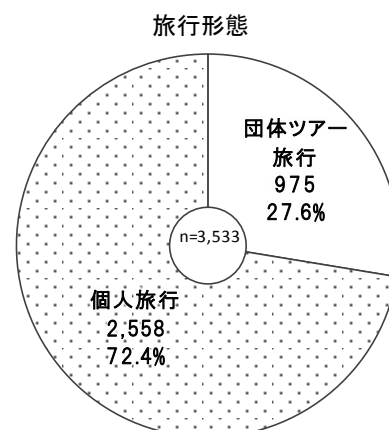
選択肢	件数	比率 (%)
全体	3,266	100.0
首都圏	712	21.8
京阪神	410	12.6
福岡県	433	13.3
長崎県	716	21.9
その他都道府県	995	30.5



⑤旅行形態

「個人旅行」が7割以上を占めています。

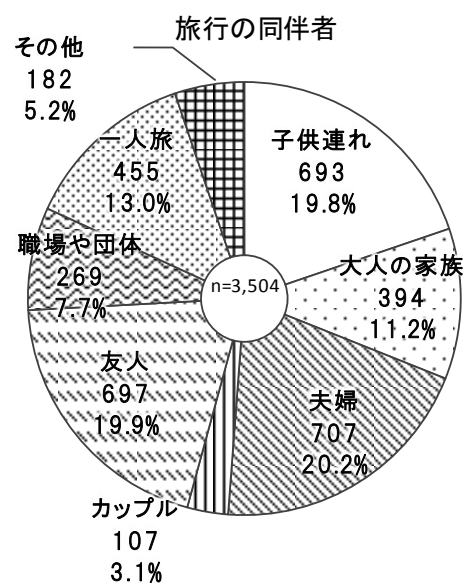
選択肢	件数	比率 (%)
全体	3,533	100.0
団体ツアー旅行	975	27.6
個人旅行	2,558	72.4



⑥旅行の同伴者

「子供連れ」、「夫婦」、「友人」がそれぞれ約2割となっています。

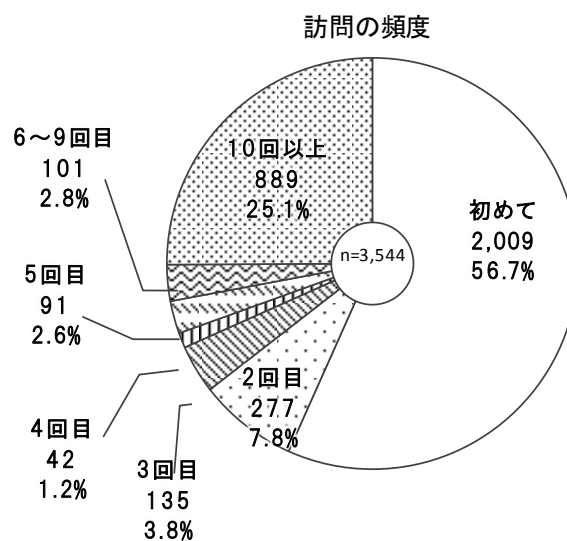
選択肢	件数	比率 (%)
全体	3,504	100.0
子供連れ	693	19.8
大人の家族	394	11.2
夫婦	707	20.2
カップル	107	3.1
友人	697	19.9
職場や団体	269	7.7
一人旅	455	13.0
その他	182	5.2



⑦訪問の頻度

「初めて」が56.7%と過半数を占めています。一方、「10回以上」が25.1%となっており、リピーターが多いことが本町の特徴と言えます。

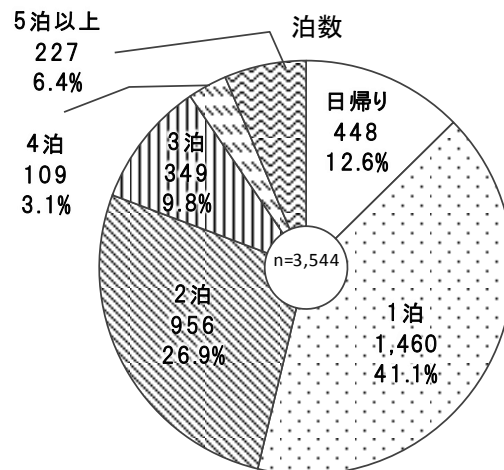
選択肢	件数	比率 (%)
全体	3,544	100.0
初めて	2,009	56.7
2回目	277	7.8
3回目	135	3.8
4回目	42	1.2
5回目	91	2.6
6～9回目	101	2.8
10回以上	889	25.1



⑧滞在日数

「1泊」が約4割と最も多く、次いで「2泊」となっており、「1泊」と「2泊」の合計で約7割となっています。

選択肢	件数	比率 (%)
全体	3,549	100.0
日帰り	448	12.6
1泊	1,460	41.1
2泊	956	26.9
3泊	349	9.8
4泊	109	3.1
5泊以上	227	6.4



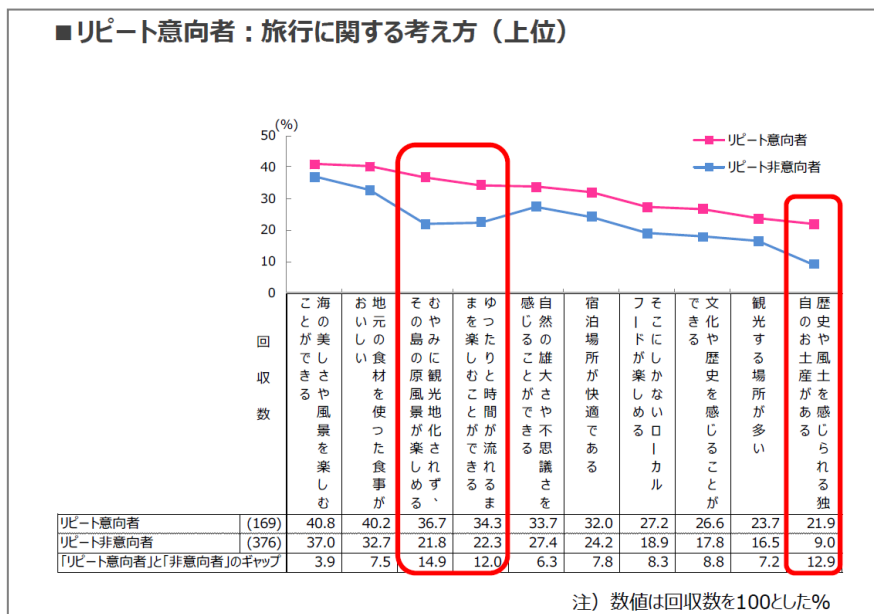
2) Re島プロジェクト

新上五島町を含む4市2町（福岡市、対馬市、壱岐市、五島市、新上五島町、屋久島町）は、2016（平成28）年度より「Re島プロジェクト」（福岡市・九州離島広域連携事業）に取り組んでいます。2016（平成28）年度は、マーケティング調査や連携プロモーションが実施され、本町においても観光関係者等によるディスカッションが開催されました。

WEBアンケート調査によると、本町へのリピート意向者の「旅行に関する考え方」として、「むやみに観光地化されず、その島の原風景が楽しめる」や「ゆったりと時間が流れるままを楽しむことができる」等が多く見られました。これらを基に、本町の独自イメージの方向性として、『キリスト教遺産を活かし、大人が、穏やかに、のんびり楽しみたいくなる島へ』という方向性が提示されました。

■WEBアンケート調査

■リピート意向者：旅行に関する考え方（上位）



■上五島の独自イメージの方向性

上五島の独自イメージの方向性（まとめ）

24

上五島の来訪意向度をUPさせる上五島の勝ち処（価値ある独自性）とは何か？

★新上五島町

→キリスト教遺産を活かし、
大人が、穏やかに、のんびり
楽しみたいくなる島へ

また、WEBアンケート調査により得られた2,500サンプルに対してクラスター分析を行い、旅行先選定の際の重視点をもとにクラスター1～5の5つのクラスターの分類を行っています。5つのクラスターのうち、Re島プロジェクト共通のターゲットとして「クラスター4 旅行・ふれあい大好きアクティブタイプ」を選定することが提言されています。

Re島プロジェクト・上五島のターゲットは？(クラスター分析より)

28

クラスター 1

旅行へのこだわりなしタイプ (26.2%)

働き盛りの男性が多く、旅行に求めるこだわり意識は非常に低い。年代層が高いため、各島への来訪経験率は高いが、各島への来訪意向は低い。今後のターゲットにはなりにくいクラスターと言える。



クラスター 2

自然・グルメ堪能バランス重視タイプ (21.2%)

年齢の高い女性やや多く、年間旅行回数も多い。独自の自然や、地元の食材を使ったグルメを堪能したいとの意識が強い。また、宿泊場所の快適さ、お土産も重視しているが、宿泊、食費などのコストは抑え気味で、バランスを重視し、賢く旅を楽しむタイプと言える。各島への来訪意向はクラスター 4 に次いで高く、特に「屋久島」「奄岐」への来訪意向が高い。観光資源を認知すると、いずれの島に対しても来訪意向が上がる。

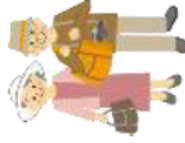


★新上五島町ターゲット (既に行きたい人々)

クラスター 3

自然、原風景重視・ゆったり時間タイプ (16%)

高年代層が多く、年間の旅行回数も多い。自然の中で、むやみに観光地化されていない原風景を楽しみ、ゆったりと時間が流れることを楽しみたいというニーズを有する。各島への来訪経験率・来訪意向率とも高いが、特に「上五島」「下五島」への来訪意向が高い。観光資源認知後も同様の傾向である。



★★Re島プロジェクト共通ターゲット (知ると行きたい人々)

クラスター 4

旅行・ふれあい大好きアクティブタイプ (22.9%)

若い人たちが多く、旅行にはアクティビティを求めている。地元の人たちとのふれあいを必要としている。また、そこしかない洗練された食材やおしゃれなレストラン・カフェが必要と考えている。各島への来訪経験率は低い、来訪意向率は非常に高い。いずれの島にとっても最も有望なクラスターと言える。



クラスター 5

ファミリーレジャータイプ (13.7%)

子育て世代の女性が多いため、旅行は年 1 回の家族旅行が中心。そのため、家族が楽しめる場所を必要としており、何より子供が楽しめるアクティビティは不可欠の要素。各島への来訪経験率・来訪意向率は低い。(いずれの島もファミリー向けと認知されていない)



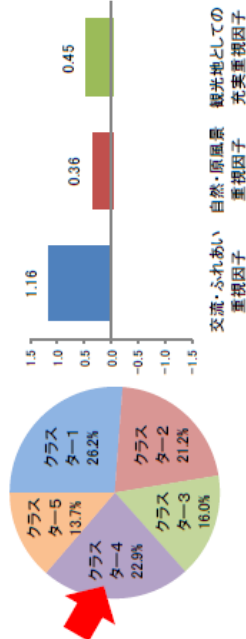
Ⅲ.対象者ペルソナ分析・ターゲットセグメンテーション 各クラスターの特徴

41

クラスター4

旅行・ふれあい大好きアクティブタイプ

若い人たちが多く、旅行にはアクティビティを求めている。また、そこしかない洗練された食材やおしゃれなレストラン・カフェが必要とされている。
各島への来訪経験率は低い、来訪意向率は非常に高い。いずれの島にとっても最も有望なクラスターと言える。



各島への来訪状況
各島への来訪経験率は低い、来訪意向率は高い。特に観光資源・アクセス認知後の来訪意向が高い。

■各島への来訪経験・来訪意向

	屋久島	奄美	対馬	上五島	下五島
来訪経験	20.7	29.3	21.1	21.8	20.1
来訪意向	20.8	20.9	19.4	16.9	15.7
当該クラスター	62.0	36.1	35.4	34.4	33.0

■観光資源・アクセス認知後の来訪意向

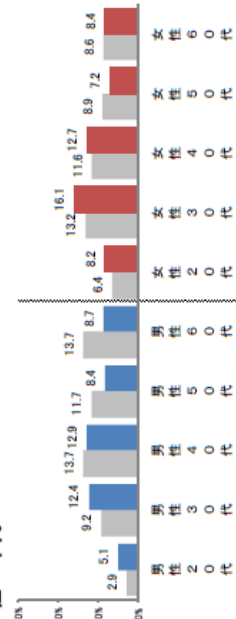
※「観光資源」は認知率または動機調査ベース
各TOP1スコア(観光資源)「とても行きたくない」
アクセス:「訪れてみたい気持ちが高まった」のスコア

	屋久島	奄美	対馬	上五島	下五島
観光資源	43.4	28.7	25.5	27.8	27.2
アクセス	44.8	33.1	30.2	27.8	28.8
当該クラスター	68.4	57.8	54.1	51.7	53.1

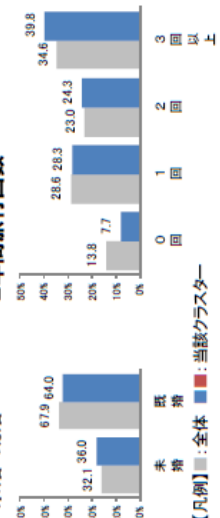
デモグラフィック特性

男女比はほぼ半々、未婚者の比率(37.0%)がやや高い。
年間の旅行経験率は最も高い。(92.3%)

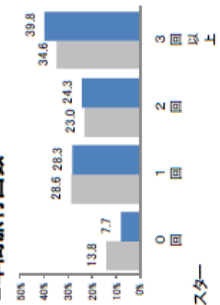
■性×年代



■未婚・既婚



■年間旅行回数

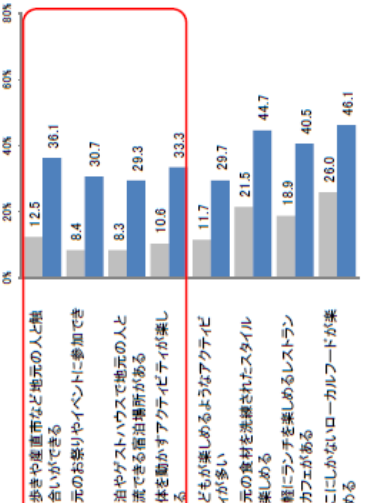


【凡例】■:全体 ■:当該クラスター

旅行先選定のための重視点(TOP1)

全般的に重視するポイントが非常に多い。なかでも『交流・ふれあい重視因子』の高さに特徴をもつ。
「街歩きや産直市」「お祭りやイベント」「民泊やゲストハウス」などで地元の人との交流を図り、「体を動かす」「子供が楽しめる」「アクティビティを堪能したい」と考えている。そのためには、「洗練された地元食材」「気軽にランチを楽しむレストランやカフェ」「そこしかないローカルフード」が必要とされている。

■旅行先選定のための重視点



【凡例】■:全体 ■:当該クラスター

各島イメージ	対馬	上五島	下五島
各島イメージ	街歩きや産直市など地元の人と触れ合いたい、交流、イメージを持っている。	生物の多様性を感じ、島オリジナルのオシャレなお土産がある島との印象を持っている。	生物の多様性を感じ、島オリジナルのオシャレなお土産がある島との印象を持っている。
アピールすべき点	マリンスポーツと香ばしい食材がアピールポイント。	地元を感じる食材や、体験、アピールポイント。	地元との触れ合い、食料の体験、アウトドア体験・マリンスポーツがアピールポイント。

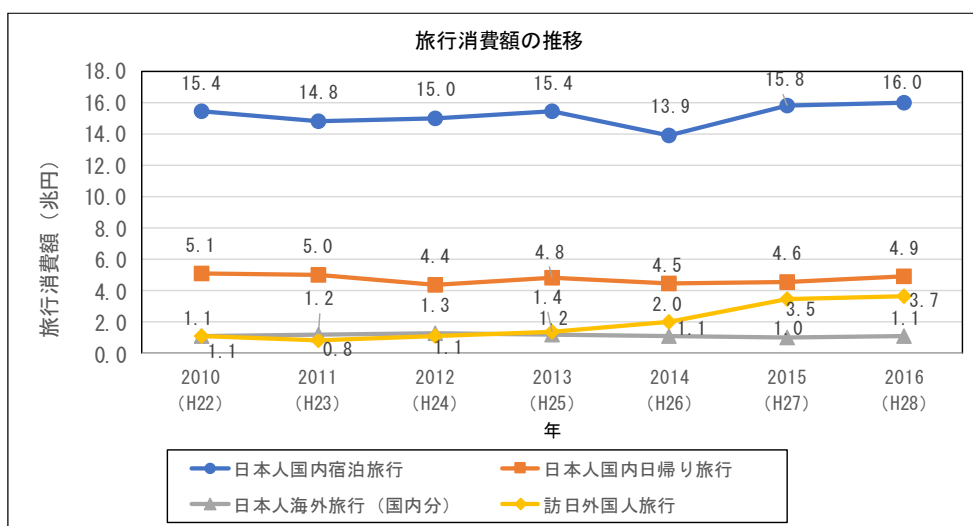
(4) 国内の観光の動向

1) 国内の観光消費額

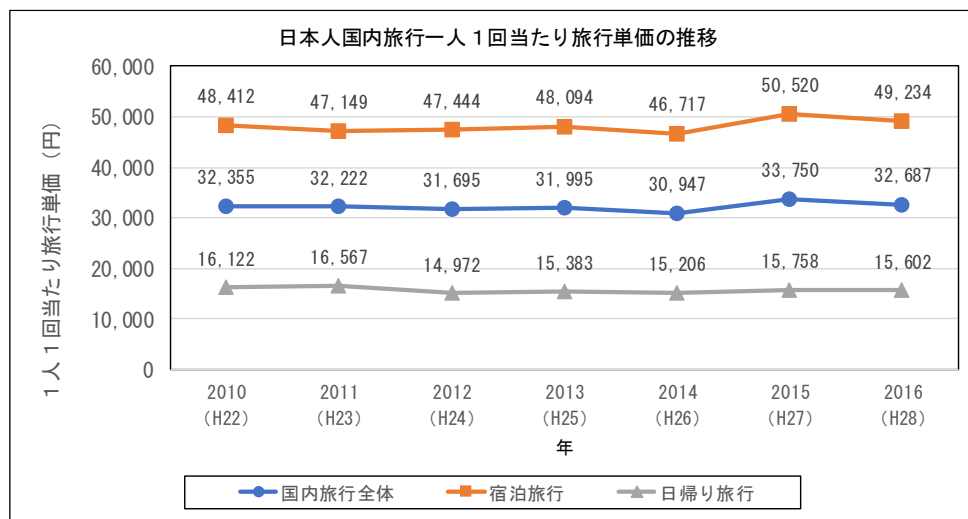
観光庁の「旅行・観光消費動向調査」によると、「日本人国内宿泊旅行」の旅行消費額は、2010年（平成22年）の15.4兆円から2016年（平成28年）の16.0兆円へと3.9%の伸び率となっており、ほぼ横ばいとなっています。「日本人国内日帰り旅行」の旅行消費額は、2010年（平成22年）の5.1兆円から2016年（平成28年）の4.9兆円へと4.1%の減少となっています。一方、「訪日外国人旅行」の旅行消費額は、2010年（平成22年）の1.1兆円から2016年（平成28年）の3.5兆円へと3.4倍に増加しています。

日本人国内旅行一人1回当たり旅行単価の推移を見ると、「国内旅行全体」では、2010年（平成22年）の32,355円から2016年（平成28年）の32,687円まで1.0%の伸びとなっており、ほぼ横ばいとなっています。2016年（平成28年）の「日帰り旅行」の単価15,602円に対して「宿泊旅行」の単価は49,234円となっており、「宿泊旅行」は「日帰り旅行」の3.2倍の単価となっています。

■旅行消費額の推移



■日本人国内旅行一人1回当たり旅行単価の推移



出典：旅行・観光消費動向調査（観光庁）

2) 観光のトレンド

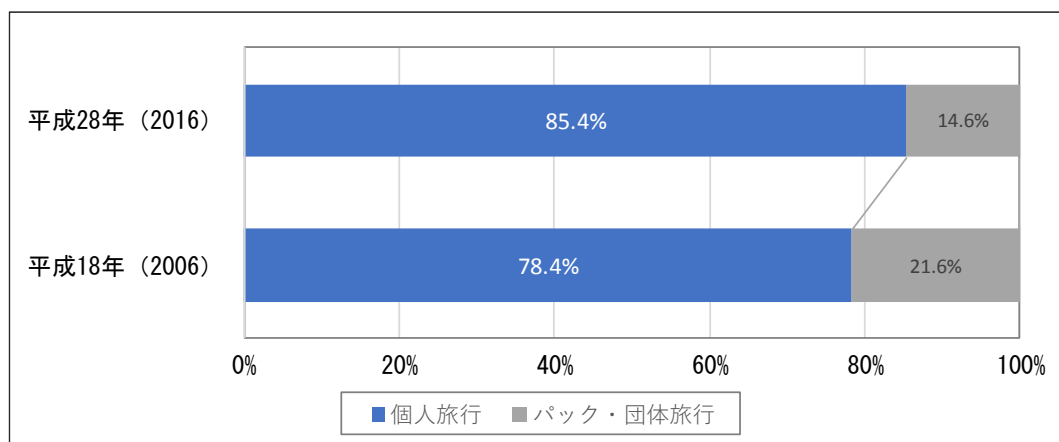
①旅行者のニーズや旅のスタイルの変化

近年、旅行者のニーズが変化し、それとともに旅のスタイルも変化しています。社員旅行などの団体旅行が減少する中で、個人や家族、友人同士、カップル、夫婦などの少人数での旅行が増加・定着しており、特に最近では“観光地を訪れること”を主目的とした観光から、“〇〇をしたい”、“癒されたい”といった「目的」をより重視した観光が主流となっています。

	発地型観光商品	▶	着地型観光商品	変化について
概要	観光客が 出発する地点 （多くはお客様の住む場所）側の事業者が主体になった観光。	▶	観光客が 到着する地点 （お客様が観光する場所）の受け入れ側が主体となった観光	近年、個人旅行が増えており、個人の要望に対応するために、観光商材の中身（クオリティ）に深さが求められている。地域の観光資源を深く知っているのは、発地側ではなく、着地側にいる観光産業事業者であることから着地型観光へとシフトしてきている。
旅行形態・行程	「 周遊型観光 」が多い。	▶	「 滞在型観光 」が多い。	近年、周遊型旅行より、滞在型観光が多くなっている。
旅のスタイル	・名所旧跡巡り ・慰安旅行 ・視察・研修旅行 ・「見る」「食べる」「遊ぶ」	▶	・体験型観光 ・交流型観光 ・学習型観光 ・「体験する」「交流する」「学ぶ」	旅行者のニーズが、従来の物見遊山的な観光旅行から、五感で体験する「 体験型旅行 」や、 地元の人々と交流する「交流型旅行」、知識欲等を満足させる「学習型観光」等にシフトしてきている。
旅行の同行者	「 団体旅行 」が多い。	▶	「 個人旅行 」が多い。	慰安旅行などの「団体旅行」から「 個人旅行 」へという流れが進んでいる
観光の対象	「自然資源」「歴史・文化資源」「温泉」「行祭事・イベント」など旧来の観光資源。	▶	「インフラツーリズム」や「聖地巡礼（アニメ）」「工場」など新たな対象が観光資源に。	個人の趣味や嗜好が多様化・細分化されたことにより、旧来は観光資源として認識されていなかった対象が、観光の対象となってきた。
実施者	・発地側の旅行会社等 ・着地側の観光事業者（宿泊事業者、交通事業者等）や観光協会	▶	・着地側の農林漁業者、観光ガイド等 ・着地側の観光事業者（宿泊事業者、交通事業者等）や観光協会	企画募集型の旅行商品を造成する大手旅行会社が、一人一人、一軒一軒の農家やガイドと折衝を行うには限界がある。

個人旅行の比率は、2006 年（平成 18 年）には 78.4%でしたが、2016 年（平成 28 年）には 85.4%となっており、10 年間で 7.0 ポイント上昇しています。

■旅行形態の変化



出典：旅行・観光消費動向調査（観光庁）

②エコツーリズム・グリーンツーリズムへの関心の高まり

親子連れや熟年層を中心に、地域固有の自然や歴史、文化、食などの地域資源を保全・活用しながら様々な体験・学習等を行う“エコツーリズム・グリーンツーリズム”への関心が高まっています。国も、グリーンツーリズムや農泊を推進する政策を進めています。長崎県内でも漁業体験や農業体験等を実施する自治体が増加傾向にあります。

③地域間競争の激化

近年、自地域の居住人口の減少や産業の低迷の状況を打開するために、交流人口の拡大を目指し観光産業に力を入れる自治体が増えています。国の「観光立国」や「地方創生」等の政策もこれらの動きを後押ししており、DMO（Destination Management／Marketing Organization）を設立して戦略的に観光振興に取り組む自治体が増えるなどの動きに繋がっています。今後、顧客の獲得や、観光振興の担い手の確保など様々な局面において、地域間競争が激化していくと考えられます。

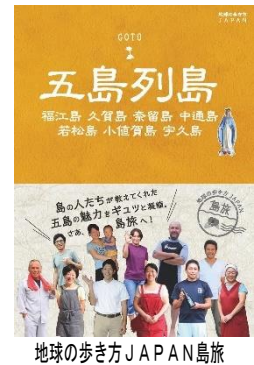
④外国人観光客の増加

国が推進するビジット・ジャパン・キャンペーン（VJC）などの成果により、訪日外国人旅行者数は、2016 年（平成 28 年）には 2,403 万人となり、2006 年（平成 18 年）の 733 万人と比べると 3.3 倍に増加しています。

2016 年（平成 28 年）3 月に国が策定した「『明日の日本を支える観光ビジョン』－世界が訪れたい日本へー」では、訪日外国人旅行者数を 2020 年に 4,000 万人、2030 年に 6,000 万人にするという目標値が示されています。この目標を達成するために、訪日外国人旅行者がストレスなく、快適に観光を満喫できる環境整備に向けた対応を加速化する方針が打ち出されており、今後も外国人観光客は増加していくと考えられます。

⑤離島への注目の高まり

1970年代には離島ブームが訪れ、その後、減少傾向にありましたが、この数年、離島への注目が高まっています。要因としては、地域活性化がブームになり地方や離島にもスポットが当たり始めたことや、インターネットの普及により、従来の本や雑誌では得られなかった離島の情報が発信されるようになったことが挙げられます。離島に関する情報を専門に発信するメディア「離島経済新聞」が2010年（平成22年）にスタートしました。ダイヤモンド社の定番旅行ガイドブックシリーズ『地球の歩き方』では、2015年（平成27年）発行の『五島列島』を皮切りに、一つの島をまるごと1冊にまとめたガイドブック『島旅シリーズ』を発行しています。



2016年（平成28年）4月に「有人国境離島法」が成立し、国も有人国境離島の振興の施策をさらに推進していますので、今後も離島への注目は高まっていくと考えられます。

⑥民泊需要の増加

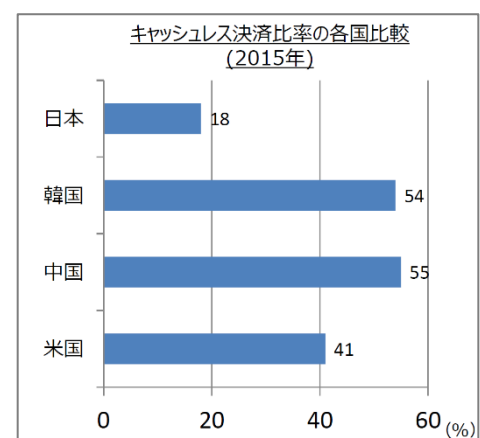
「訪日外国人消費動向調査」（観光庁）によると、2017年（平成29年）7-9月期における訪日外国人旅行者の「有償での住宅宿泊」の利用率は12.4%となっています。また、訪日外国人旅行者が急増する中、多様化する宿泊ニーズに対応して普及が進む民泊サービスについて、その健全な普及を図るため、事業を実施する場合の一定のルールを定めた住宅宿泊事業法（民泊新法）が2017年（平成29年）6月に成立しました。民泊の需要は、今後も増加していくと予想されます。

⑦ICTの進化・普及にともなう消費行動の変化

近年、インターネットやモバイル端末の進化・普及にともない、消費行動においてオンラインショッピングを利用する人が増加し続けています。旅行に関する情報収集や決済においても、オンライン・エージェント経由の旅行・宿泊予約が増加しています。

「スマートフォンの利用と旅行消費に関する調査（2016）」（JTB総合研究所）によると、「スマートフォンを通じて旅行商品の予約や購入をした」割合は年々増加し、2016年（平成28年）調査では34.1%と3人に1人以上が、直近の旅行をスマートフォンを利用して予約や購入したと回答しています。

一方、日本は海外に比べてキャッシュレス決済の普及が遅れていることから、国は「明日の日本を支える観光ビジョン」や「日本再興戦略」において、キャッシュレス化を推進する方針を掲げています。



出典：キャッシュレスの現状と推進（経済産業省）

(5) 世界遺産登録を目指す「頭ヶ島の集落」をはじめとするカトリック教会関連の受入体制の課題、改善の方向性

1) 「頭ヶ島の集落」の現況

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産である「頭ヶ島の集落」は、2018年（平成30年）に世界遺産に登録されると、来訪者数が大幅に増加すると予測されています。構成資産が「頭ヶ島天主堂」から「頭ヶ島の集落」に変更になったことにより、頭ヶ島の集落全体を保護・保全する必要性から、調和のとれた受入体制の整備が不可欠です。

2) 「頭ヶ島パーク＆ライド」の取組み

2015年（平成27年）9月より、上五島空港駐車場に車両を駐車してもらい、頭ヶ島白浜地区までシャトル車を運行する「頭ヶ島パーク＆ライド」を試行的に実施し、2016年（平成28年）以降は4月から11月までの期間中の土日祝、大型連休期間中は常時実施し、一般車両の乗り入れを制限しました。2018年（平成30年）4月以降は、頭ヶ島の集落の価値を損なうことなく後世に残すため、頭ヶ島パーク＆ライドの専用車両でしか乗り入れできないという受入体制の構築に取り組んでいます。

■頭ヶ島天主堂

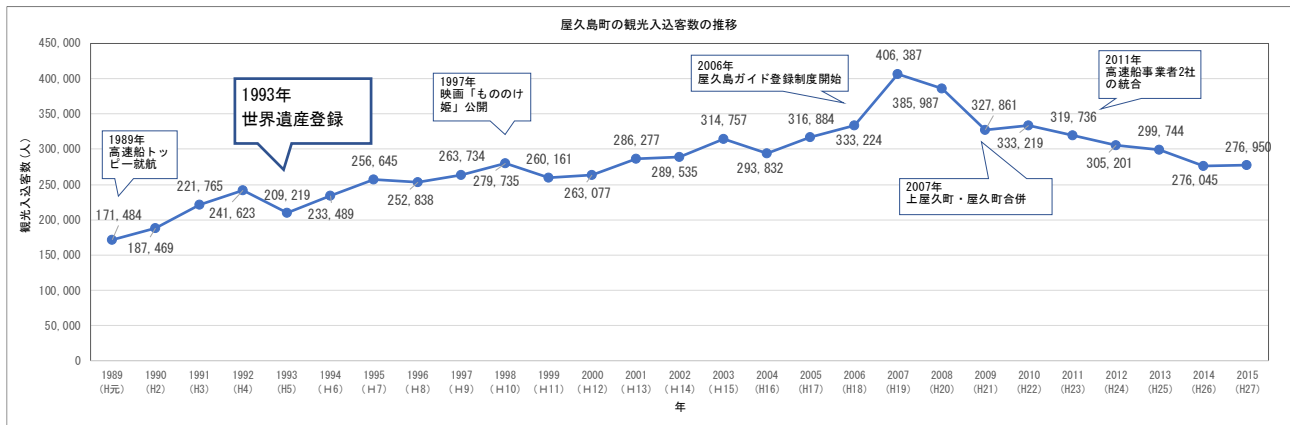


3) 他の世界遺産の参考事例

同じく世界遺産登録されている離島の例として、鹿児島県屋久島町では1993年（平成5年）の世界遺産登録以降10年間で10万人以上の観光客増加が見られ、2007年（平成19年）には40万人を超えピークとなりましたが、以降は減少傾向にあります。

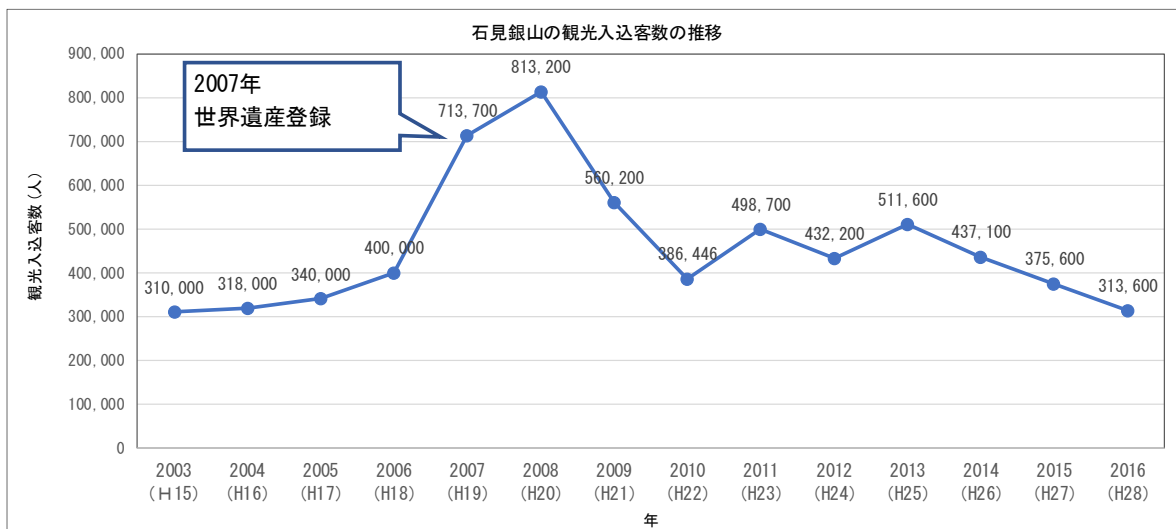
2007年（平成19年）に世界遺産登録された島根県の石見銀山は、登録翌年にピークを迎えて以降、概ね減少を続けています。岐阜県の白川郷は、年度ごとに増減しながらも、着実に入れ込み客数を伸ばしており、社会情勢や立地条件、地域の取組み等により観光動向に差が生まれています。

■屋久島町の観光入込客数の推移



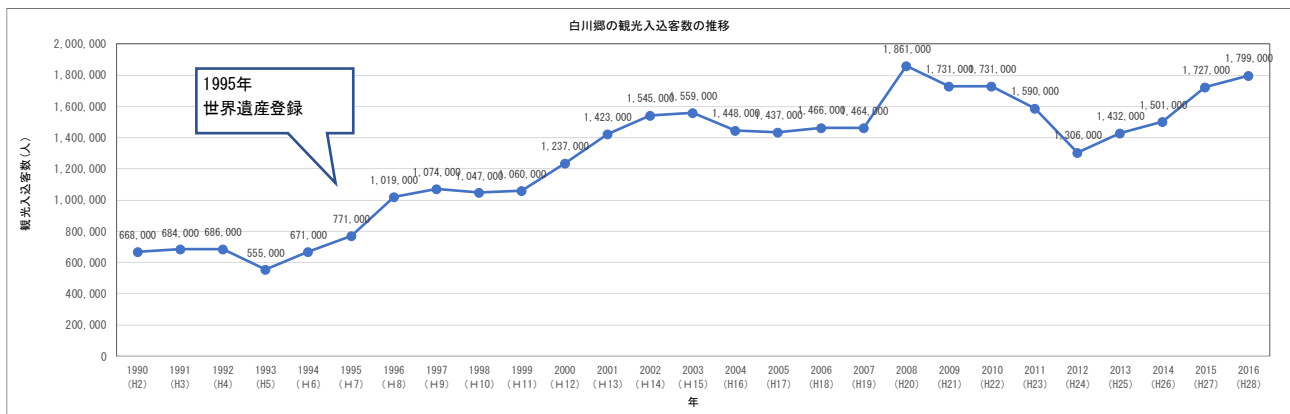
出典：熊毛支庁及び種子屋久観光連絡協議会

■石見銀山の観光入込客の推移



出典：島根県観光動態調査結果

■白川郷（白川村）の観光入込客の推移



出典：白川村の観光統計

4) 世界遺産登録による問題と課題

「頭ヶ島の集落」の現況や「頭ヶ島パーク＆ライド」の取組み、他の世界遺産の参考事例等を総合的に勘案すると、世界遺産に登録されることにより下表のような問題が発生すると想定されます。また、それらの問題に対して、解決しなければならない課題は下表のように整理されます。

■世界遺産登録による問題と課題

	問題	課題
① 来訪の偏り	●観光客の目的地が「頭ヶ島の集落」のみに集中し、「頭ヶ島パーク＆ライド」の台数及び人数制限により、訪問することが出来なかったり、長い待ち時間を強いられたりする。 ●観光客の目的地が「頭ヶ島の集落」のみに集中し、他の観光地等へ回遊せず、町全体の活性化に繋がらない。	●「頭ヶ島パーク＆ライド」を適切に運用する必要がある。 ●「頭ヶ島の集落」以外の観光資源に関する情報提供等を行い町全体への回遊を促すことにより、「頭ヶ島の集落」への一極集中を緩和すると同時に、町全体の観光の活性化を図る必要がある。
② 環境の悪化	●「頭ヶ島の集落」への来訪者増加により、ごみの増加やトイレ不足など、「頭ヶ島の集落」の環境が悪化する。 ●世界遺産登録効果により町全体の観光客数が増加し、ごみの増加やトイレ不足など、町全体の環境が悪化する。 ●環境の維持管理のためのコストがかかる。	●「頭ヶ島パーク＆ライド」を適切に運用し、「頭ヶ島の集落」の環境保全に取り組む必要がある。 ●町全体の環境整備を行う必要がある。 ●環境の維持管理のためのコストの分担・徴収の仕組みを検討する必要がある。
③ リソースの不足	●ガイド、レンタカー・タクシーなど、人材を始めとした観光資源の不足により、キャパシティオーバーとなる。	●人材の確保・育成を行う必要がある。
④ 情報提供の不足	●「頭ヶ島の集落」の混雑状況や交通情報など、刻々と変化する状況が観光客に伝わらず、観光客の不満足に繋がる。	●観光客が、本町に関する情報を、旅前、旅中など色んな局面において手に入れることが出来るようにする必要がある。 ●長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産インフォメーションセンターへの事前連絡制度の周知徹底を図る必要がある。

（６）観光関連団体・事業者の現状並びに意向

１）宿泊施設の受入環境の整備状況

①施設規模・従業員等

本町が2017年（平成29年）に実施した「宿泊施設実態調査」（全54事業所を対象）によると、本町の宿泊施設の部屋数合計は493部屋であり、収容人数は1,208人となっています。そのうち、比較的大人数を収容することの出来る「ホテル」形態の施設は、6施設（11%）、収容人数252人（21%）であり、「旅館」や「民宿・ペンション」など収容人数の小さい施設が多くなっています。そのため、世界遺産登録にともない多数の観光客（特に、団体）が集中して来訪した場合に、円滑に収容することが出来るように、町全体で最適化を図る必要があります。

従業員数の合計は252人であり、外国人スタッフを雇用している施設はありません。

■宿泊施設の区分別の概況

		旅館	ホテル	ビジネス ホテル	民宿・ペン ション	その他	合計
①施設数	施設数	14	6	5	22	7	54
	比率	26%	11%	9%	41%	13%	100%
②部屋数	部屋数	89	132	68	169	35	493
	比率	18%	27%	14%	34%	7%	100%
③収容人数	収容人数	255	252	110	344	247	1,208
	比率	21%	21%	9%	28%	20%	100%
④正規雇用		5	25	7	15	1	53
⑤パート雇用		11	72	14	42	13	152
⑥契約社員		0	1	0	0	0	1
⑦その他雇用形態		16	2	2	22	4	46
⑧従業員数合計		32	100	23	79	18	252
⑨うち外国人スタッフ数		0	0	0	0	0	0

②Wi-fi 対応

Wi-fi 対応を行っている施設数は 28 施設（52％）となっています。残りの 26 施設（48％）は、「未対応・無回答」となっています。

■Wi-fi 対応状況

	施設数(施設)	比率
全館対応	23	43%
客室のみ	1	2%
共用部分のみ	4	7%
未対応・無回答	26	48%
計	54	100%

③インターネット予約対応

インターネット予約対応状況については、自社ホームページでの予約対応を行っている施設数は 16 施設（うち国内予約サイトでの受付対応も行っているのは 6 施設）、国内予約サイトでのみ対応を行っているのは 7 施設であり、海外予約サイトに対応している 2 施設（いずれも自社 HP、国内予約サイトでも受付対応あり）はありません。

■インターネット予約対応

	自社HP		国内予約サイト		海外予約サイト	
	施設数	比率	施設数	比率	施設数	比率
対応済み	16	30%	13	24%	2	4%
未対応	38	70%	41	76%	52	96%
計	54	100%	54	100%	54	100%

④クレジットカード決済対応

クレジットカード決済対応を「導入済み」の施設数は 9 施設（17％）となっており、41 施設（76％）は「導入予定なし」と回答しています。

■クレジットカード決済対応

	施設数(施設)	比率
導入済み	9	17%
導入予定・検討中	4	7%
導入予定なし	41	76%
計	54	100%

2) 観光関連団体・事業者の意向

観光関連団体・事業者の取組状況や今後の意向は、下表の通りです。

団体・事業者名	新上五島町観光物産協会
取組状況	新上五島町の観光、物産の振興を推進するために、会員相互の連携による組織の基盤強化を図り、地域の情報発信や各種観光推進事業の実施及び地域の特産品を島外へ積極的に売り込む等、地域の観光産業の振興に寄与することを目的とした活動を行っている。 ・HP「まるごと体験！！新上五島」やFacebookの運営 ・体験型プラン等の参加受付窓口 ・着地型旅行商品の企画・実施 ・観光案内所の運営 
今後の意向	今後も本町の観光物産振興の中心となって、観光案内窓口として観光客の受け入れ体制の整備を図るとともに、観光物産協会ホームページやフェイスブックによる積極的な情報発信を行う。団体旅行商品として定着している「五島神楽」、地元漁協と連携しながら取り組んでいる「漁師の朝飯」、観光ガイドの受付業務をはじめ、個人観光客が気軽に参加することができる着地型旅行商品「五島列島キリシタン物語～上五島編～」の企画実施、体験プログラムの開発など、観光関係者と一体となって、滞在プランの運営に取り組んでいく。更なる交流人口の拡大を目指し、朝型夜型の宿泊を促進する新たな滞在プランの開発に積極的に取り組んでいく。

団体・事業者名	上五島ふるさとガイドの会
取組状況	「しま自慢観光カレッジ」の受講生によって、2006年（平成18年）8月1日に結成された団体。しまの観光振興と、旅行者におもてなしの心で接しながら、「①新上五島町観光物産協会を窓口にしたガイド依頼による島内案内」「②毎年10月、町主催「上五島教会めぐりウォーク&クルーズ」にガイド役として参加」「③旅行代理店のツアー商品にふるさとガイドとして参画」「④さまざまな自主研修や島外への先進地視察」などの活動を行っている。  お一人様から団体まで、要望に応じてオリジナルプランを組み立て、本土には無い上五島の魅力を様々なコースに盛り込むとともに、通常のツアーでは体験できない、ひと味もふた味も違う極上の旅となるように努めている。
今後の意向	①観光ガイド養成講座を開催するなど、新たなガイド人材の発掘・育成を図る。 ②五島列島おもてなし協議会を軸に、近隣市町村のガイド団体とも交流を図

	りながら、個人観光客をメインターゲットとした着地型旅行商品や体験プログラム等の開発を進めていく。 ③活動理念として「地域を守り、地域を伝える」を掲げ、観光ルートや観光ポイントの環境整備、子どもたちのふるさと学習協力など、地域観光の振興と世代間を繋ぐ活動に取り組む。 ④月例研修会を活用して、会員のガイド力の平準化を図る。
--	---

団体・事業者名	九州商船株式会社
取組状況	平成 28 年から五島列島への滞在客を増やすため、滞在型事業を始めており、上五島及び下五島あわせて 10 人の「滞在型事業コーディネーター」を選任し、滞在型商品の造成を行っている。毎年、料理メニューの開発を行い、「ジョイフルパック五島」と「五島列島団体ユニットプラン」を全国で販売している。 
今後の意向	引き続き、料理メニューの開発を行っていく。多くの宿泊施設で食することの出来る共有メニューをつくり、町全体で宣伝し強みを活かして集客につなげていく。 滞在型事業コーディネーターが、「ドローンを使った自撮り・映像に残すという体験商品」「いりこ選別体験」「大人になってからの修学旅行」「釣り」「歩き巡礼の旅」等の体験プランを開発しており、今後、インターネットによる情報発信を行っていく。

団体・事業者名	株式会社五島産業汽船
取組状況	鯛ノ浦～長崎航路の運航、有川～佐世保航路の運航を行っている。また、関連会社である U S A ポートサービス株式会社が、有川～小値賀～宇久航路の運航を行っている。関連会社である有限会社ジィ・エス・ケイ「G S K トラベル」が、旅行業を行っている。 
今後の意向	有川～佐世保航路については、有川港への寄港を鯛ノ浦港へ集約し、上五島～本土間の航路を一つにすることにより、航路を分かり易くし、利便性を高める。有川～小値賀～宇久航路については、増便をすることにより、本土からの接続や利便の充実を図る。「G S K トラベル」については、今後多くのツアーを企画し、認知度アップを図る。

団体・事業者名	野母商船株式会社
取組状況	博多～青方港～福江港をつなぐフェリー「太古」の運航。地元ホテルと連携をとり、団体客のアーリーチェックインを進めている。夏の多客期に、地元の業者をお願いして、船内でのお弁当販売の取組みを行っている。また、夏期に 

	において、九州内大学サークルの誘客に取り組んでいる。
今後の意向	今後も夏期において、九州内大学サークルなどの誘客に取り組んでいく。

団体・事業者名	上五島地区旅館組合
取組状況	宿泊施設の会員相互の連携、各地域の周遊促進を図るため、「新上五島町よか とこ散策マップ」を作成した。
今後の意向	会員の高齢化に伴い、会員を増加する取り組みを行い、 宿泊施設の会員相互の情報共有を行うとともに、郷土 料理の提供など観光客のおもてなしによる受け入れに 取り組んでいく。



団体・事業者名	一般財団法人新上五島町振興公社
取組状況	「椿油加工事業（椿油の製油・販売、つばき体験工房の管 理運営等）」「ふれ愛らんど事業（ふれ愛らんど施設の管理 運営等）」「高井旅コテージログハウス管理事業」「有川青 少年旅行村事業」「公有財産管理事業」「上五島空港管理事 業」を行っている。
今後の意向	つばき体験工房は、椿油加工事業の職員や公社事務局が搾油体験を行っている ので、本来の業務の合間を縫って体験を実施している。当日の受付は難しい ので、今後も現行の2日前予約で継続して取り組んでいきたい。観光宿泊 3施設は食事の提供がないため、お客様が上五島の食事を堪能できるように、 他の宿泊施設も紹介していきたい。



団体・事業者名	新上五島町椿木工技術振興会
取組状況	椿材等を使った木工品の開発、制作。五島列島の自然 の中で育った椿で作る木工品は、堅くて丈夫でありな がら木目や色合いが美しく、見る人たちを和ませてく れる。
今後の意向	木工体験（2～3時間）で、箸、バターナイフ、コースター等の制作の体験 を検討。皿、コップなど熟練の技が必要な品目や、3～4日の日数を要する 塗装体験を組み込めるかが課題となっている。



3) 新規宿泊施設事業開発

平成30年に、本町が所有する遊休施設（旧新上五島町奈良尾温泉センター）を活用し、新規宿泊施設の開業が予定されています。

(7) 新上五島町のこれまでの取組、及び今後の取組予定

1) 概要

本町は各種活性化事業において、他市町との連携を行いながら取り組んできました。2016 年（平成 28 年）4 月以降は、有人国境離島法の成立により離島同士の連携事業が加速し、その重要性もますます高まっています。有人国境離島法は 2017 年度（平成 29 年度）より 10 年間の時限法であるため、今後 10 年間は観光、移住定住促進のほか、地域社会維持・地域経済活性化のための取組みが重点的に行われると推測されます。

離島間の連携を図りながら、一方では、本町独自の「らしさ」を磨き上げ、長崎県内および九州内の離島として独自の存在感をアピールしていくことが必要になります。

2) 平成 29 年度に実施している離島関連事業一覧

事業名	事業主体	参加自治体	取組概要
「日本の国境に行こう!!」プロジェクト	内閣府総合海洋政策推進事務局 有人国境離島政策推進室	新上五島町、対馬市、壱岐市、五島市、佐世保市（宇久島）、小値賀町、西之表市（種子島）など計 15 地域、71 島	国民の中の「国境に行こう、国境に学ぼう、国境に暮らそう」といった機運を醸成し、実際のアクションにつなげることで、人が現に住む国境の島々を活性化させ、以て国境の島々を価値化するプロジェクトの総称 ●鮮魚の新たな流通・販売網の構築 ●離島セレクト BOX の飲食店展開 ●アイランドホッピングによる観光モニターツアー ●国境の島の魅力を発信する WEB サイト構築
アイランダー	国土交通省・公益財団法人日本離島センター	出展団体計 74 団体（2016 年）	全国の島が一体となって島のもつ自然・歴史・文化・生活などのすばらしさをアピールし、交流人口の拡大、U・I・J ターンの促進を図り、離島地域の活性化に資する目的で行う「離島」と「都市」との交流事業。
平成 29 年度福岡市・九州離島広域連携事業	福岡市・九州離島広域連携協議会	新上五島町、福岡市、対馬市、壱岐市、五島市、屋久島町	福岡市からダイレクトアクセスができる九州の 5 市町と福岡市による連携事業。2016 年度（平成 28 年度）は全国的なプロモーション、2017 年度は組織の将来的な自走を担う人材の育成と、閑散期の来訪者数増加について試行的事業に取り組む。
おもてなしのしま五島プロジェクト事業	五島列島おもてなし協議会	新上五島町、五島市、小値賀町	世界遺産関係の着地型旅行商品の造成や広報、滞在型プランの開発、これらの周知を含めた宿泊施設等の研修など観光客の受入を充実させ、五島列島全体の滞在型観光を総合的に推進する。

事業名	事業主体	参加自治体	取組概要
しま共通通貨	しま共通地域通貨発行委員会	新上五島町、壱岐市、佐世保市、宇久町、小値賀町、五島市	加盟自治体で利用できる地域通貨。当初は紙の発行で行われたが、現金化に時間がかかること、印刷代がかさむこと等によりコスト高と資金繰りが課題であったが、平成28年10月以降は、3月末までの閑散期限定利用に絞り電子化された。
四季を味わう上五島事業	実行委員会	新上五島町	「ほたる」「海」「椿」「教会」など、四季を通じて島の資源を活かした滞在型プランの企画、開発を実施。併せて、広報活動や旅行社セールスなどにより、島の魅力を島外に発信していく。
五島列島全国PR展開事業	実行委員会	新上五島町、五島市	福岡など近隣都市部の個人客をターゲットに、キリシタンクルーズや新たに企画開発する滞在プランなど、島の認知度向上と新規宿泊客獲得を目的にした観光展を開催する。 (510列島まつり)
五島広域観光推進事業	五島観光連盟	新上五島町、五島市	世界遺産登録を見据え、五島列島全域の教会群を巡る滞在型商品の定着化を図るため、宣伝を強化するとともに、コースの変更・充実、催行日の見直しなどブラッシュアップを図る。 (五島列島キリシタンクルーズ)
滞在型観光推進計画作成業務委託事業	新上五島町	新上五島町単独	滞在型観光を推進するための観光客受入計画とアクションプランを作成する。

3. 新上五島町の観光ビジョン

(1) SWOT 分析

本町の観光の内部の強み・弱み、取り巻く機会・脅威を整理すると、下表のようになります。

	好影響	悪影響
内部環境	強み (Strengths) - 複数の航路がある（博多発・佐世保発・長崎発・下五島発）。 - 知名度の高い郷土料理がある（五島うどん）。 - 自然景観、教会群や採石場跡など文化的・歴史的景観といった資源が多い。 - 国指定重要無形民俗文化財である五島神楽などの無形の資源が多い。 - 長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産の構成資産として、「頭ヶ島集落」が平成30年度に世界遺産登録される見込み。 - 平成30年に新規宿泊施設の開業が予定されている。 - 都会の喧騒から隔絶されており、ゆったりとした時間を楽しむことができる。	弱み (Weaknesses) - 空路がないため、長崎県・福岡県外からのアクセスは時間と費用がかかる。 - 公共交通など観光客向けの移動手段が充分でない。 - 個人旅行者向けの体験商品が少ない。 - Wi-fi 環境の整備が充分でない。 - オンライン決済の普及が充分でない。 - 外国語メニューなど海外客対応の基盤が充分でない。 - 町の人口減少、少子高齢化。 - 就業人口の減少により、地域社会や産業の維持が困難となってきた。特に、第一次産業就業者数の減少が深刻。
外部環境	機会 (Opportunity) - 国の観光立国や有人国境離島の政策の推進。 - 離島への注目の高まり。 - 団体旅行から個人旅行への転換。 - エコツーリズム・グリーンツーリズムへの関心の高まり。 - 外国人観光客の増加。 - ICT等の進化・普及により離島でも情報受発信が容易になってきた。 - ICT等の進化・普及により、島外の人とのつながりが個人レベルでも行うことが容易になってきた。 - 規制緩和（民泊等）	脅威 (Threat) - 地域間競争の激化。 - 他の離島（沖縄、伊豆諸島）の人気の高まり。 - 悪天候による欠航などのリスクのため、旅行会社が積極的に離島の旅行商品を造成・販売しようとしにくい。 - 日本全体の人口減少・少子高齢化により、旅行市場の縮小が進行する。 - 東南アジアの新興国を中心とした外国人観光客が増加し、多様な文化・習慣への対応が求められている

(2) 新上五島町の観光振興の方向性と施策

新上五島町観光の将来像

祈りと癒しの島 上五島

観光振興の方針

1. 周遊型観光に加えて、滞在型観光をさらに強化・拡充する
2. 世界遺産登録の好機を観光振興に活かす
3. ICT 等の技術進化・普及をマーケティングやプロモーションに活用する

	滞在型観光	周遊型観光
1. 観光産業の高度化	施策1 多様なメディアを活用した情報発信 ①情報の受発信のプラットフォーム体制の構築 ②モバイル端末による情報発信の強化 施策2 人と人が繋がる観光・交流の推進 ①「人」の魅力が伝わるコミュニケーションの促進 ②SNS等を活用した継続的な繋がりづくり 施策3 地域経済活性化の仕組みづくり ①様々な事業者の連携による地域経済への波及効果の向上	施策9 町の観光を牽引する産業の育成 ①国際水準のホテル・旅館の整備促進 ②宿泊施設等のサービス水準の向上 施策10 観光マーケティングの強化 ①ビッグデータやICTを活用した観光マーケティングの取組
2. 観光産業の活性化と人材育成	施策4 観光を支える人づくり ①観光マネジメント・マーケティング人材の育成 ②宿泊施設、観光施設、交通事業者、商店等の人材育成 ③地域住民が一体となった観光客受入体制の構築 施策5 体験型・交流型観光の推進 ①食の魅力の創造・発信 ②美しい自然環境の保全・改善・活用 ③「もう一泊」してもらえるような滞在型プランの開発・提供	施策4 観光を支える人づくり ①観光マネジメント・マーケティング人材の育成 ②宿泊施設、観光施設、交通事業者、商店等の人材育成 施策11 観光消費の拡大 ①新たな土産品の開発、観光客への商品の販売体制づくり
3. 交通基盤の整備と広域連携の推進	施策6 交通アクセスの利便性の向上 ①円滑な島内周遊のための誘導板の整備 ②交通アクセスに関する情報発信	施策6 交通アクセスの利便性の向上 ①円滑な島内周遊のための誘導板の整備 ②交通アクセスに関する情報発信 施策12 広域連携による観光の推進 ①県内各地域が連携した広域観光の促進 ②福岡市など県外と連携した広域観光の促進
4. 世界遺産を中心とする歴史文化を活用した観光の推進	施策7 世界遺産等の価値やストーリーを組み込んだ滞在型プランの造成 ①世界遺産のテーマやストーリーを組み込んだ滞在型プランの造成 ②キリシタン関連遺産についての学習を深める「学習型旅行」の提供 ③「祈り」と「癒し」を体験出来るプログラムの開発	施策13 世界遺産を活用した観光客の誘致・拡大 ①受入環境の整備 ②世界遺産を活用した周遊型観光の推進 施策14 効果的なPRと情報発信 ①他の世界遺産構成資産と連携した情報発信
5. 外国人観光客の誘客拡大	施策8 外国人観光客に対して訴求力のある素材の発掘、「和の魅力」の提供 ①外国人観光客向けの体験プログラムづくり ②外国人観光客の受入体制の整備	施策15 世界遺産を活用した外国人観光客の誘致・拡大 ①世界遺産を活用した韓国、フィリピン、欧州等からの誘客 施策16 外国人観光客の受入環境の整備 ①Wi-Fi環境、外国語対応などの充実

※赤文字は、「周遊型観光」及び「滞在型観光」共通の項目

4. 新上五島町の滞在型観光の現況

(1) 滞在プランの状況

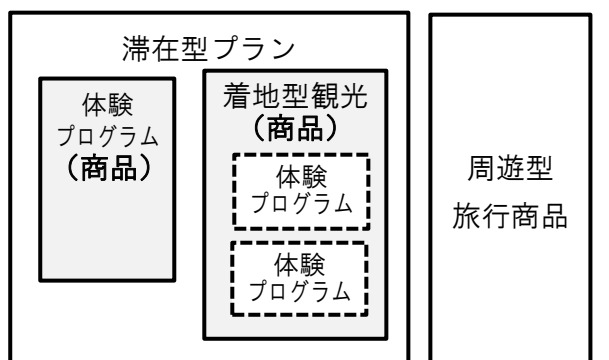
1) 滞在プラン商品の状況

本町において現在実施されている滞在プラン一覧を見ると、「受入期間」や「所要時間」等について下記のような傾向が見られます。

項目	傾向
プラン数	20 件以上のプランが実施されており、プランの数は多い。
プラン内容	・ 上五島の「自然」や「生活文化」を上手く活かしたプランが多い。ただし、「自然」や「生活文化」をそのまま体験するプランが多く、捻りを利かせたプランや、トレンドを取り入れたプランは多くはない。 ・ 「新上五島町でしか体験することが出来ないプラン」や「そのプランを体験するために、わざわざ新上五島町まで来たくなるようなプラン」は少ない。 ・ 海や加工場等においてアクティブに体験するプランが多く、日常的な街並みを巡るような「まち歩き」プランや、「のんびり、穏やかな」プランは少ない。 ・ 「夜神楽鑑賞」(夜)や「島の漁師の朝飯」(早朝)など、「もう一泊」に直接的に繋がるようなプランも増えてきている。
受入期間	十数件のプランが「通年」対応しており、季節としての空白期間は無い。一方、「その季節にしか体験できない」ような季節限定感のあるプランは少なかったが、「チャーチウィーク in 上五島教会コンサート」など季節限定のプランが開発され始めている。
所要時間	90 分以上の時間を要する比較的長時間のプランが多い。
ターゲット (対象者)	当初、団体向けの教育旅行を中心にプランが開発されたため、個人向けのプランが少ない。
受入人数	「10 人～」など比較的大人数を受け入れるプランが多い。
料金	1,000 円～2,000 円程度の安価で参加できるプランが多い。
予約	「1 週間前までの予約」が必要なプランが多く、直前の予約が出来ない。

【用語の定義】

本計画においては、「周遊型旅行商品」以外の「滞在型プラン」のうち、「商品」として提供されているものを1プランとして数えています。単独の「体験プログラム」商品として提供されている場合は「体験プログラム」を1プランとして数え、複数の体験プログラムが組み合わされて「着地型観光商品」として提供されている場合は「着地型観光商品」を1プランとして数えています。



■新上五島町滞在プラン一覧

滞在プラン名		問合せ先	受入期間	所要時間	受入人数	料金	予約
島まるGOTO体験プログラム	五島うどん作り体験	新上五島町観光物産協会	通年	60 ～ 120 分	1～30 人	1～4 人 10,000 円、5 人以上 1 人当り 2,200 円 増	1 週間 前まで
	カンコロ餅作り体験	新上五島町観光物産協会	通年	120 分	10～30 人	2,000 円/人	1 週間 前まで
	椿油の搾油体験	新上五島町観光物産協会	通年	90 分	2～20 人	小中学生 820 円 /人、高校生以上 1,540 円/人 (別途、椿の実 1 キロ 750 円)	2 日 前 まで
	塩づくり見学	新上五島町観光物産協会	通年	30 分	1～50 人	無料	1 週間 前まで
	魚・イカ開き体験	新上五島町観光物産協会	通年	90 分	10～30 人	3,600 円/人	1 週間 前まで
	かまぼこ作り体験	新上五島町観光物産協会	通年	120 分	10～50 人	2,000 円/人	1 週間 前まで
	陶芸絵付け体験	新上五島町観光物産協会	通年	120 分	10～30 人	1,620 円/人 (別途、送料)	1 週間 前まで
	竹細工作り体験	上五島海洋青少年の家	通年	120 分	1～100 人 (子供を含む家族あるいは団体のみ)	500 円/人	1 週間 前まで
	魚市場競り見学	新上五島町観光物産協会	通年	60 分	10 人	無料	1 週間 前まで
	養殖魚餌やり体験	新上五島町観光物産協会	4 ～ 11 月	60 分	10～20 人	500～3,600 円/人	1 週間 前まで
	魚釣り体験	新上五島町観光物産協会	通年	120 分	10～50 人	500 円/人	1 週間 前まで
	定置網漁体験	新上五島町観光物産協会	通年	90 分	10～30 人	1,500 ～ 4,600 円/人	1 週間 前まで
	地引網漁体験	新上五島町観光物産協会	通年	180 分	80 人以上	32,000 円/団体	1 週間 前まで
	林業体験	新上五島町観光物産協会	4 ～ 7 月・9～11 月	120 ～ 180 分	20 ～ 30 人 以上	3,500 円/人	1 ～ 2 週間 前 まで
	シーカヤック体験	新上五島町観光物産協会	7～9 月	120 分	10～30 人	各施設に問合せ	1 週間 前まで
	シュノーケリング体験	新上五島町観光物産協会	7～9 月	120 分	10～25 人	各施設に問合せ	1 週間 前まで

滞在プラン名		問合せ先	受入期間	所要時間	受入人数	料金	予約
「探訪く四季を味わう上五島」推進事業	ほたるのふるさと相河川まつり	新上五島町観光物産協会	5～6月	-	-	無料	-
	蛤浜で遊ぼうデー&白砂の芸術祭	新上五島町観光物産協会	7月	-	-	無料	-
	上五島協会めぐりウォーク&クルーズ	探訪く四季を味わう上五島実行委員会	10月	-	120人	大人5,000円、中学生以下3,000円	約1カ月前まで
	チャーチウィーク in 上五島教会コンサート	新上五島町	12月	-	-	無料	必要なし
	五島列島 椿ロード・ノルディック・ウォーク	新上五島町観光物産協会	3月	-	-	3,000円/人	-
	島で食べたい!「島の漁師の朝飯」!	新上五島町観光物産協会(上五島町漁協女性部)	通年	7:30頃～9:00	15～50人(1団体のみ)	2,000円/人	要予約
	夜神楽鑑賞	新上五島町観光物産協会(神楽保存会)	通年	60分	2～80名	32,400円	-
	五島列島キリシタン物語～上五島編～	新上五島町観光物産協会	平成29年10月～平成30年3月	5時間	2～14名	8,800円	3日前まで(催行が決定していれば前日16時まで)
	五島列島キリシタンクルーズ	五島自動車(株)	2016年4月～2017年3月の土日祝	5時間	2名以上	大人／9,800円、小人／7,800円、幼児以下／無料	1週間前まで
	キリシタン洞窟クルーズ	せと志お明日香丸、祥福丸	通年	60分～90分	1～12名	2名までの乗船8,000円、3名以上の乗船一人3,000円	要予約
		若松瀬戸遊覧屋形船「Catherina-カテリナ-」	通年	90分	12名まで	貸切30,000円、5名以下15,000円、6名以上1人2,500円	要予約

2) 滞在プランの情報発信

滞在プランの情報発信については、新上五島観光物産協会が情報の収集発信や参加申込受付窓口の機能を担っており、冊子「島まる GOTO 体験プログラム」やWEBサイト「まるごと体験！！新上五島」等の情報媒体を通じて情報発信を行っています。

一方、「asoview！」や「旅の発見」などの体験型プラン予約サイトには1件も登録されていません。

■新上五島町滞在プランに関する情報発信一覧

媒体種別	媒体名	発信主体
紙媒体	島まる GOTO 体験プログラム	新上五島観光物産協会
	祈りの島旅（新上五島町観光ガイド）	新上五島町観光商工課、新上五島町観光物産協会
	新上五島町よかところ散策マップ	上五島地区旅館組合、中五島高校（十八銀行社会開発振興基金）
	ゆたっと	五島列島おもてなし協議会
WEB	まるごと体験！！新上五島（新上五島観光物産協会ホームページ）	新上五島観光物産協会
	新上五島観光物産協会 Facebook	新上五島観光物産協会
	上五島 Navi（Facebook）	
	しまとく通貨ホームページ	しま共通地域通貨発行委員会
	ながさき旅ネット	（一社）長崎県観光連盟
	Re 島ちゃんねる	福岡市・九州離島広域連携協議会

※参考：体験型プラン予約サイト一覧

予約サイト名	運営会社
ベルトラ	ベルトラ株式会社
asoview！（アソビュー）	アソビュー株式会社
旅の発見	近畿日本ツーリスト
TRIP	株式会社 TRIP
旅プラスワン	株式会社ホワイト・ベアーファミリー
じゃらん net	株式会社リクルートホールディングス
ポケカル	株式会社ポケカル
VISIT	株式会社観光販売システムズ
地旅	株式会社全旅

予約サイト名	運営会社
JTBホームページ(現地観光プラン・レジャーチケット・定期観光バス)	株式会社ジェイティービー
アクティビティジャパン	株式会社アクティビティジャパン
VIATOR (ビクター)	Viator, Inc. (TripAdvisor の子会社)
Voyagin	株式会社 Voyagin (楽天グループ)
TABICA	株式会社ガイアックス
Airbnb (エアビーアンドビー)	Airbnb

(2) 滞在プランの実績

本町の滞在プランの実績を見ると、2016 年度(平成 28 年度)の参加人数は 3,159 人となっており、第 2 次新上五島町総合計画の成果指標である「平成 31 年の離島体験等交流者数:4,000 人」を達成していないことになります。

プランごとの参加人数の実績を見ると、数百人が参加しているプランがある一方で、参加人数がゼロとなっているプランもあるなどバラつきが見られます。

「探訪～四季を味わう上五島」推進事業のイベント動員数の島外比率を見ると、「上五島協会めぐりウォーク&クルーズ」が約 7 割である以外は、いずれも 1 割程度となっており、島内からの参加が多くなっています。

■新上五島町体験実績一覧

	26年度		27年度		28年度	
	開催回数 (回)	参加人数	開催回数 (回)	参加人数	開催回数 (回)	参加人数
養殖餌やり体験 (協会受付分)	3	50				
五島うどん作り体験 (協会受付分含む)		340		248		282
かまぼこ作り (協会)	1	6				
かんころ餅 (協会)	2	25	3	35	9	170
魚釣り (協会)	4	222	4	240	6	300
定置網 (協会受付分)			1	2	2	13
真珠の珠出し (協会受付分)	2	16				
塩づくり見学 (協会受付分)	1	10				
つばき体験工房 (協会受付分含む)		1,936		596		355
五島神楽鑑賞 (協会窓口)	26	810	26	680	21	461
若松瀬戸・キリシタン洞窟ク ルーズ(瀬渡・屋形舟)		647		641		686
五島列島キリシタンクルー ズ		366		969		892
計		4,428		3,411		3,159
漁師の朝飯 (協会窓口)	54	1,653	91	2,816	49	1,383

※養殖餌やり体験、定置網、真珠の珠出し、塩づくり見学については、協会受付分のみでの把握で、民間事業者が行っている実績全体の数値ではありません。

■着地型旅行商品利用状況

	26年度		27年度		28年度	
	開催回数 (回)	参加人数	開催回数 (回)	参加人数	開催回数 (回)	参加人数
五島列島キリシタン物語			11	28	33	118
五島列島キリシタンクルーズ	70	366	140	969	144	892
計	70	366	151	997	177	1,010

平成18～29年度「探訪～四季を味わう上五島」推進事業 イベント動員数

実施イベント	内 訳	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	合 計	島外比率
ほたるのふるさと 相河川まつり	来場者数	4,811	5,366	4,000	4,345	2,853	2,351	2,434	2,638	2,577	2,476	2,175	38,271	
	うち島外	429	659	500	445	191	65	169	274	287	480	465	4,200	11.0%
蛤浜で遊ぼうデー & 白砂の芸術祭	来場者数	2,000	2,000	2,000	3,000	3,550	3,200	2,300	2,500	3,000	3,000	2,500	29,050	
	うち島外				300	355	320	230	250	300	300	250	2,305	7.9%
上五島教会めぐり ウォーク&クルーズ	参加者数	88	111	163	149	120	119	104	133	(中止110)	129	106	1,222	
	うち島外	32	76	114	113	87	89	76	103	(中止76)	95	87	872	71.4%
チャーチウィーク in 上五島教会 コンサート	来場者数	810	1,020	1,110	1,130	851	1,073	1,017	963	866	970	993	10,803	
	うち島外	0	0	0	106	68	158	139	134	176	196	142	1,119	10.4%
	頭ヶ島天主堂	120	155	185		129	119	152	181	125	108	86	1,360	
	うち島外					11	2	27	13	23	18	17	111	8.2%
	青砂ヶ浦天主堂	200	200		175	162	212	160	206	207	210	187	1,919	
	うち島外				35	23	11	16	60	68	69	39	321	16.7%
	大曽教会	150		190		149							489	
	うち島外					11							11	2.2%
	中ノ浦教会	130	110	180		156			155				731	
	うち島外					21			14				35	4.8%
	土井ノ浦教会	90		85	105		95				67		442	
	うち島外				17		5				13		35	7.9%
	福見教会	120	195			146		193		60			714	
	うち島外							7		7			14	2.0%
	仲知教会		180						163				343	
	うち島外								24				24	7.0%
	青方教会		180		260		200	163	161	260	301	270	1,795	
	うち島外				25		48	6	18	34	53	21	205	11.4%
	丸尾教会			200									200	
	うち島外												0	0.0%
	浜串教会			270			243		97		109		719	
	うち島外						28		5		7		40	5.6%
	曽根教会				210		204	229		142	175	135	1,095	
	うち島外				7		64	78		28	36	36	249	22.7%
	鯛ノ浦教会				260							173	433	
	うち島外				7							10	17	3.9%
	桐教会				120			120		72		142	454	
	うち島外				15			5		16		19	55	12.1%
	江袋教会					109							109	
	うち島外					2							2	1.8%
五島列島橋ロード フルディック・ウォーク	参加者数	—	—	—	—	—	—	—	114	85	102	111	412	
	うち島外	—	—	—	—	—	—	—	75	53	45	55	228	55.3%
定期観光バス 運行助成事業 (巡礼ワゴン)	参加者数	—	—	84	187	107	—	—	—	—	—	—	378	
	(催行回数)	—	—	(23)	(72)	(49)	—	—	—	—	—	—	(144)	
五島うどんフェスタ	来場者数	1,000	1,000	1,000	3,720	—	—	—	—	—	—	—	6,720	
合 計		8,709	9,497	8,357	12,531	7,481	6,743	5,855	6,348	6,528	6,677	5,885	86,856	
うち島外 合 計		—	—	—	1,151	808	632	614	836	816	1,116	999	7,208	8.3%

(3) 滞在プランに対する利用者等の評価

①「五島列島キリシタン物語」参加者アンケート

「五島列島キリシタン物語」参加者アンケートの結果の要点をまとめると下記ようになります。(調査の詳細は、71 ページ)

項目	内容
年齢	「60 代」…31.0%、「70 代以上」…26.4%、30 代…14.9%
性別	「女性」…64.0%、「男性」…36.0%
職業	「無職・主婦」…39.5%、「会社員」…20.9%、「会社経営・役員」…8.1%
居住地	「東京都」…23.2%、「神奈川県」…12.2%、「埼玉県」…9.8%
本ツアー企画の情報入手ルート	「市町・観光協会のホームページ・SNS」…30.6%、「旅行会社のパンフレット」…23.5%、「旅行会社スタッフの勧め」…15.3%
新上五島町への宿泊の有無	「宿泊した」…66.7%、「宿泊していない」…33.3%

②新上五島町観光振興ビジョン

「新上五島町観光振興ビジョン」（平成19年2月策定）の「観光の現状」では、本町の体験型観光について、『多様な体験型観光プログラムを展開しつつも、インストラクターの不足や宿泊施設との連携が課題』という分析が行われています。また、大手旅行代理店及び大手旅行雑誌編集者に対するヒアリングによると、『滞在型を積極的に進めることが必要。せっかく苦労して上五島を訪れるのだから長期滞在型（ロングスティ）の観光メニューを整備することが重要ではないか。』や『体験型観光メニューは多いが、全てが魅力的とは言えない』等の意見が挙げられています。

⑥体験型観光

多様な体験型観光プログラムを展開しつつも、
インストラクターの不足や宿泊施設との連携が課題に

- ・ 本町では自然環境などの地域資源を活かした体験型観光プログラムを展開しており、新上五島町観光物産協会のホームページで情報発信を行っています。
- ・ しかし、インストラクターの不足等によるプログラムの多様化の遅れや、宿泊施設との連携不足、当日受付体制の未整備など対応すべき課題も多い状況にあります。

大手旅行代理店及び大手旅行雑誌編集社に対するヒアリング結果要旨

●印象が薄い“上五島の観光” ～“うり”のイメージがつかめない～

- ・ 地域間競争が激しくなっており、“温泉”や“自然”、“歴史”だけでは差別化が難しい状況にある。それだけ売り出しても集客は難しい。
- ・ 上五島はあえてハンディをテーマとするくらいの展開ができないか。つまり、“何もない”、“秘境”、“誰とも会わない”、“プライベートリゾート”などで差別化は可能と思う。
- ・ 滞在型を積極的に進めることが必要。せっかく苦労して上五島を訪れるのだから長期滞在型（ロングスティ）の観光メニューを整備することが重要ではないか。

●宿泊施設が少なく、小規模なものが多い。

大型ツアーの誘客は難しい状況に

- ・ 旅行代理店からみると、上五島は宿泊施設が“少ない”、“規模が小さい”というイメージがあり、大型ツアーなどを誘致しにくいといえる。

●体験型観光メニューは多いが、全てが魅力的とは言えない

- ・ 新上五島町観光物産協会のホームページで体験型観光メニューが整理されているが、修学旅行等に対応したメニューになっているかどうか疑問である。
- ・ 時間設定が長すぎるイメージがある。また、料金は掲載されていないが、修学旅行で利用する場合は低価格の設定が必要である。

●教会群や自然環境の更なる活用が課題

- ・ 教会や自然環境は確かに素晴らしいものであるが、観光商品としての活用は十分ではないのではないか。

出典：新上五島町観光振興ビジョン

(4) 滞在プランの課題

観光客の実態や滞在型観光客の特性、及び滞在プランの現況・実績等より、本町の滞在プランの「課題」は、下記のように整理されます。

課題1 個人旅行者への対応

観光のトレンドとして、団体旅行の割合が減少し、個人旅行の割合が増加していることが挙げられます。一方、新上五島町の滞在プランは、当初、団体向けの教育旅行を中心にプランが開発されたため、個人向けのプランが少なく、個人旅行者への対応が不足している状況です。今後、個人旅行者への対応を行っていく必要があります。

課題2 コンテンツの多様化

発地側の旅行会社が造成した周遊型旅行商品は、キリスト教関連のコンテンツが多く、それ以外をテーマとしたコンテンツが少ないため、今後、着地側がキリスト教関連以外のコンテンツを開発していく必要があります。一方、これまでに町内で開発されたコンテンツは、「自然」や「生活文化」をそのまま体験するプランが多く、捻りを利かせたプランや、トレンドを取り入れたプランは多くはありません。また、「新上五島町でしか体験することが出来ないプラン」や「わざわざ新上五島町まで来たくするようなプラン」、「日常的な街並みを巡るような「まち歩き」プラン」、「季節限定感のあるプラン」などは少ない状況です。今後、旅行者のニーズの多様化に対応できるようにコンテンツの多様化を図りながら、同時に、「ありきたりのコンテンツ」については見直しを図っていく必要があります。

課題3 実施主体の多様化・人づくり

上記の「課題2 コンテンツの多様化」を解決するためには、従来の観光関連事業者だけでは困難であるため、農林漁業者や飲食・物販関連事業者、各種団体、地域住民など様々な主体が本町の観光の取り組みに参画する必要があります。多様な主体が観光に参画出来るようにするためには、ガイドやインストラクター等の人材育成や、幼少期から郷土について知ることの出来る教育など、様々な「人づくり」の活動を行っていく必要があります。

課題4 なるべく直前まで参加申込受付して欲しいというニーズへの対応

個人旅行者の場合、団体旅行に比べて、旅行の計画を立てる時期が遅いという特性があります。なかには、現地に行ってみて滞在プランを見つけて参加するケースや、参加するために旅行の行程を延長するケースもあり得ます。このような、なるべく直前まで参加申込の受付を行って欲しいというニーズに対応する必要があります。

課題5 質の高さを求めるニーズへの対応

離島の場合、航空路や航路で移動する必要があるため、本土内の鉄道や車での旅行と比べて、移動時間やコストがかかるという特性があります。せっかく時間とコストをかけて来たのだから、「安かろう、悪かろう」よりは、「多少価格は高くても、質が良い」ものを求めるニーズもあると考えられ、このようなニーズに対応していく必要があります。

課題6 テーマ性やストーリー性の強化

本町の現在の滞在プランは、体験プログラムの数が多いものの、それらが単発の商品となっており、それらを繋ぎ合わせてテーマ性やストーリー性を感じることの出来る着地型観光商品の開発は始まったばかりです。今後、新上五島町でしか体験することの出来ない、テーマ性やストーリー性を持った滞在プランを強化していく必要があります。

課題7 地元の人との交流の強化

近年、交流人口の拡大を目指し観光産業に力を入れる自治体が増えており、観光分野における地域間競争が激化しています。自然資源や歴史・文化資源等において他地域と決定的な差別化を図ることは難しく、最終的に鍵を握るのは「人」であるとも言われています。自然資源や歴史・文化遺産等の場合、世界遺産と言えども何度もリピートして見に来る人は稀ですが、一方、「人」と「人」の繋がりにはリピーターに繋がる可能性が高いと言えます。

課題8 「食」に対するニーズの高まりへの対応

「Re島プロジェクト」(福岡市・九州離島広域連携事業)が平成28年度に実施したWEBアンケート調査(サンプル数2,500)によると、旅行先選定にあたって重視する項目として、「地元の食材を使った食事が美味しい」が42.9%で30項目中1位となっています。このような「食」に対するニーズに対応する必要があります。

課題9 滞在プランの普及の強化

個人旅行者が増加したことにより、旅行の計画を事前に綿密に立てるより、旅行中に現地で情報を収集し計画を立てる人が増えています。今後、世界遺産の周遊を目的とした観光客が増加すると見込まれますが、それらの観光客に滞在プランにも参加して頂く、或いは、滞在プランへの参加のためにもう一度来訪して頂くためには、滞在プランの存在を普及させ、世界遺産以外の魅力を観光客に発信する必要があります。

課題10 旅行者への適切な情報発信

本町を含む離島は観光コンテンツの予約環境・決済環境がアナログに偏重しており、交通環境を始めとする様々な点が国際水準からの遅れが見られます。「遅れている」ことを知らない旅行者が、現地到着後に困る可能性が高い状況です。適切な情報発信を行い、顧客が安心して島に来訪し、滞在して頂けるようにする必要があります。

課題11 顧客との継続的なコミュニケーションの強化

「五島列島キリシタン物語」参加者アンケートによると、参加者が本ツアー企画の情報をどのようなルートで入手したかについては、「市町・観光協会のホームページ・SNS」が30.6%と最も多くなっています。SNSなどメディアの進化や多様化により、様々な主体が、様々な媒体を使って、顧客との継続的なコミュニケーションを行うことが可能となってきています。リピーターを増やすためにも、旅行が終わった後も顧客と地域とつながる仕組みを作っていく必要があります。

5. 滞在プラン推進計画

(1) 滞在プランの改善の方向性

「4-(4) 滞在プランの課題」で挙げられた「課題」を解決するための「改善の方向性」は下記のように整理されます。

分類	課題	改善の方向性
ターゲット	課題1 個人旅行者への対応	個人旅行者でも参加し易い滞在プランの造成
コンテンツ	課題2 コンテンツの多様化	「トレンドを取り入れたプラン」や「まち歩きプラン」、「季節限定感のあるプラン」など多様な滞在プランの開発
実施主体	課題3 実施主体の多様化	農林漁業者や各種団体など様々な主体が観光の取り組みに参画する体制の構築
参加申込	課題4 なるべく直前まで参加申込受付して欲しいというニーズへの対応	出来るだけ直前まで参加申込を受け付ける仕組みの構築
価格・質	課題5 質の高さを求めるニーズへの対応	「5,000 円未満」の価格帯よりも上の価格帯（5,000～10,000 円）の着地型旅行商品の開発
ストーリー性	課題6 テーマ性やストーリー性の強化	単発の体験プログラムのみならず、プログラムを繋ぐストーリー性のある着地型旅行商品の開発
交流	課題7 地元の人との交流の強化	「地元の人と交流する」プログラムの開発
食	課題8 「食」に対するニーズの高まりへの対応	既存の郷土料理等のブラッシュアップと新しいメニューの開発
島内における情報発信	課題9 滞在プランの普及の強化	宿泊施設等に「滞在プラン」のパンフレット等を設置し、従業員が「滞在プラン」を紹介、おすすめする。モバイル端末に対応した情報提供を行う。
島外への情報発信	課題10 旅行者への適切な情報発信	アナログな環境等、本土とは異なる島の水準に関して適切な情報発信を行う。
コミュニケーション	課題11 顧客との継続的なコミュニケーションの強化	顧客との継続的なコミュニケーションを行う仕組みを構築する。

(2) コンセプト

本計画の基本的な方向性等を明確にするために、下記のように計画のコンセプトを設定します。

島のゆったりと流れる時間の中で、祈りと癒し、人との交流を体感できる滞在プランの提供

(3) ターゲット

本町の滞在プランを推進するにあたって、ターゲット層ごとのニーズを捉えて的確に滞在プランを提供することが出来るように、ターゲット設定を行います。

1) ターゲットに関する現況の整理

アンケート調査結果等より、現在の本町への来訪者について比率の高い順に整理すると、下表のようになると推定されます。

①年代層別

順位	年代層	根拠
1位	60代	● 「観光客満足度調査」において、最も比率が高い結果となっている。 ● 「五島列島キリシタン物語」参加者アンケートにおいて、最も比率が高い結果となっている。
2位	40代	● 「観光客満足度調査」において、「60代」に次いで、比率が高い結果となっている。
3位	30代	● 「観光客満足度調査」において、「60代」「40代」に次いで、比率が高い結果となっている。 ● 「五島列島キリシタン物語」参加者アンケート」において、「60代」「70代以上」に次いで比率が高い結果となっている。

②居住地別

順位	居住地	根拠
1位	首都圏（関東）	● 「観光客満足度調査」において、「長崎県」（21.9%）に次いで「首都圏」（21.8%）が2番目に多い。 ● 「五島列島キリシタン物語」参加者アンケートにおいて、「東京都」（23.2%）、「神奈川県」（12.2%）、「埼玉県」（9.8%）となっており、首都圏の県が上位を占めている。
2位	長崎県内	● 「観光客満足度調査」において、「長崎県」が21.9%と最も多い。
3位	福岡	● 「観光客満足度調査」において、「福岡県」が13.3%となっており、「長崎県」「首都圏」に次いで多い。

2) 重点ターゲットの設定と取組み方針

重点ターゲット設定にあたっては、「現在、数多く来訪されている層」を大事にすることももちろん必要ですが、それ以外にも、「今後、旅行者ニーズや旅行形態の変化等により、来訪が増えると期待出来るか」や「他の観光地との競合に勝てるか」、「実際に、新上五島町が、滞在プランを提供することが出来るか」等、様々な要素を総合的に勘案しながら設定する必要があります。

①年代層別重点ターゲット

ターゲット	年代層	選定理由	取組方針
旅行・ふれあい大好きアクティブタイプ 	主に 30代	● Re島プロジェクトにおいて、Re島プロジェクト共通のターゲットとして「クラスター4 旅行・ふれあい大好きアクティブタイプ」を選定することが提言されている。同クラスターの特徴として、『若い人たちが多いため、旅行にはアクティビティを求めており、地元の人たちとのふれあいを必要としている。各島への来訪経験率は低い、来訪意向率は非常に高い。いずれの島にとっても最も有望なクラスターと言える。』と分析されている。 ● 若い世代にファンになってもらえば、長期にわたってリピートしてもらえる可能性が高まる。	● このクラスターの旅行先選定のための重視点として、「街歩きや産直市」「お祭りやイベント」「民泊やゲストハウス」などで地元の人との交流を図り、「体を動かし」「子供が楽しめる」アクティビティを堪能したいと考えていることから、これらを満たすプランを提供する。
ファミリーレジャータイプ 	主に 30代女性	● Re島プロジェクトにおける分析では、『子育て世代の女性が多いため、旅行は年1回の家族旅行が中心。そのため、家族が楽しめる場所を必要としており、何より子供が楽しめるアクティビティは不可欠の要素』とされている。	● 旅行先選定のための重視点として、「家族で楽しめる要素がたくさんあること」「観光する場所が多いこと」が挙げられていることから、多くのメニューを体験できるようなプランを提供する。
自然、原風景重視・ゆったり時間タイプ	主に 60代以上	● Re島プロジェクトにおいて、新上五島町のターゲットとして「クラスター3 自然、原風景重視・ゆったり時間タイプ」を選定することが提言されてい	● 滞在プラン(滞在型観光)の新規ターゲットと言うよりは、従来の周遊型観光のメインターゲットとして重視していく。

ターゲット	年代層	選定理由	取組方針
		る。同クラスターの特徴として、『高年代層が多く、年間の旅行回数も多い。自然の中で、むやみに観光地化されていない原風景を楽しみ、ゆったりと時間が流れることを楽しみたいというニーズを有する。』と分析されている。 ● 現在、最も多く来訪していると推定される年代層である。	● 現在来訪している層に、体験メニューや着地型観光等を組み合わせた、現在よりも滞在日数の多い旅行プランを提案する。 ● 実際に来訪したお客様に、別の滞在プラン情報を提供し、リピートして頂く。
団体教育旅行	主に10代	● 近年、修学旅行等において、体験型学習プログラムの導入を進める動きが強まっており、今後とも増加すると推測される。 ● 若い世代にファンになってもらえば、長期にわたってリピートしてもらえる可能性が高まる。 ● 企業研修等においても、体験型プログラムを導入するケースが増えている。	● 長崎県や九州観光推進機構等と連携した誘致活動  ● 受入のキャパシティの拡充 ● 悪天候に伴う船便欠航時のバックアップ体勢の構築（長崎市内等）
外国人旅行者	-	● 現在はまだ国内観光客延べ数 261,522 人（H28）に対して、外国人宿泊客実数 549 人（H28）と比率は低いが、53 人（H23）⇒549 人（H28）と増加率は高いため、ターゲットとして設定する。	● 世界遺産登録をきっかけとして増加する外国人観光客に対して、「和の魅力」や「心の交わり」を感じる滞在プランを提供する。 ● レンタカーやタクシーに囚われない移動手段の提供の拡大（レンタサイクル、路線バスの利便性向上等）

②居住地別重点ターゲット

居住地	選定理由	取組方針
首都圏（関東）	● 居住地別比率が、「観光客満足度調査」において2番目に高く、「新上五島町観光アンケート調査」において最も高い。	● 九州内の居住者に比べて、もともと日数や価格のかかる旅行プランで来訪していると考えられることから、体験メニューや着地型観光

居住地	選定理由	取組方針
	● 「「五島列島キリシタン物語」参加者アンケート」において、「東京都」、「神奈川県」、「埼玉県」が上位を占めており、「キリシタン物語」のような着地型観光へのニーズが高いと考えられる。	等を組み合わせることにより、「もう一泊」したくなるような旅行プランを提案する。 ● 「伊豆諸島」など首都圏から近い離島との差別化を図ることの出来る魅力の発信や滞在型プランを提案する。
福岡	● 「観光客満足度調査」及び「新上五島町観光アンケート調査」において、「首都圏（関東）」「長崎県内」に次いで3番目に多い。 ● 新上五島町への来訪経験が無い人の約6割は、福岡～新上五島町の直行便があることを知らない（Re島プロジェクトWEBアンケート）ことから、まだ伸びしろがあると考えられる。	● 「Re島プロジェクト」との連携により、福岡～新上五島町の直行便があることをアピールし、福岡からの旅行商品を造成し、福岡に向けての情報発信を積極的に行う。 ● 福岡市は、居住人口のうち、「30代」が223千人（14.5%）、「20代」が191千人（12.4%）など、他都市に比べて若年層の比率が高い都市である。30代については、「①年代層別重点ターゲット」で挙げたターゲットとも重なることから、福岡市在住の30代の嗜好に合った滞在型プランを提案する。

（４）施策とプロジェクト

方向性 1 観光産業の高度化

施策 1 多様なメディアを活用した情報発信

実施主体	観光協会・行政	☒	民間事業者	☐	町民	☐
------	---------	----------------------------------	-------	-----------------------	----	-----------------------

プロジェクト名	島の魅力情報発信連携プロジェクト					
プロジェクト概要	滞在プランをはじめ、おすすめの観光スポット、イベントなど島の旬な情報を、各種事業者等と連携して観光物産協会へ集約し、観光物産協会のホームページで発信する。 観光物産協会を本町の情報受発信のプラットフォームとして位置づけ、本町の観光に関するお問い合わせに対して、観光物産協会が一元的に対応することが出来るような体制づくりを行う。 また、旅行者が、旅行中に手軽に情報を入力することが出来るように、スマートフォンやタブレット等のモバイル端末による情報発信を強化する。					



施策 2 人と人が繋がる観光・交流の推進

実施主体	観光協会・行政	☐	民間事業者	☒	町民	☐
------	---------	-----------------------	-------	----------------------------------	----	-----------------------

プロジェクト名	人と人の繋がりづくりプロジェクト					
プロジェクト概要	宿泊事業者、商店、交通事業者、ガイドをはじめ、全ての町民が、お客様と接する折に触れ、島の大きな観光資源の一つと言える「人」の魅力が伝わるようなコミュニケーションを行うように心がける。SNS等を活用することにより、旅行の前後においてもお客様とのコミュニケーションを継続的に行い、リピーターになって頂けるようにする。					

施策3 地域経済活性化の仕組みづくり

実施主体	観光協会・行政	☐	民間事業者	☒	町民	☐
------	---------	-----------------------	-------	----------------------------------	----	-----------------------

プロジェクト名	滞在型観光地域連携プロジェクト					
プロジェクト概要	滞在型観光（着地型観光）は、周遊型観光（発地型観光）に比べて、地元に着くお金が大きく、地域経済への波及効果が高いと言われている。但し、実際に地域経済への波及効果を高めるためには、観光で来訪したお客様に買って頂けるように商品や料理メニューのブラッシュアップや、滞在型プランの中への組み込み、原料調達の際の地元比率のアップ等の取り組みが必要である。島内の第1次産業、第2次産業、第3次産業など様々な事業者等が連携して滞在型観光に関わることで、滞在型観光が本町の経済全体に与える波及効果を高めるようにする。					

方向性2 観光産業の活性化と人材育成

施策4 観光を支える人づくり

実施主体	観光協会・行政	☒	民間事業者	☐	町民	☐
------	---------	----------------------------------	-------	-----------------------	----	-----------------------

プロジェクト名	観光人材育成プロジェクト					
プロジェクト概要	本町の観光に関して、戦略的なマーケティングを行い、町内外の関係者等の連携をマネジメントしていくことの出来るキーマンを育てるために、観光物産協会スタッフの人材育成に取り組んでいく。また、教会だけでなく、本町の多様な魅力を解説できるよう、観光ガイドの育成にも取り組んでいく。					

プロジェクト名	おもてなしのしまプロジェクト					
プロジェクト概要	主に宿泊施設や観光施設、交通事業者、商店等の事業者を対象とした人材育成のための研修会やセミナーを開催する。観光業界の環境変化や、観光客のニーズ変化、他地域の事例等の情報共有を図りながら、外国人を含めた観光客受入体制の強化に取り組んでいく。					

プロジェクト名	みんなで支える観光のしまづくりプロジェクト
プロジェクト概要	主に地域住民を対象としたセミナーを開催し、観光客増加への理解促進や、町と地域住民が一体となった観光客受入体制の構築に取り組んでいく。地域住民との交流を促進することにより、観光⇒交流⇒移住・定住という流れにも繋がるようにする。

施策5 体験型・交流型観光の推進

実施主体	観光協会・行政	☐	民間事業者	☒	町民	☐
------	---------	-----------------------	-------	----------------------------------	----	-----------------------

プロジェクト名	しま食魅力開発プロジェクト
プロジェクト概要	五島うどんをはじめとする島の食材を活かした既存の郷土料理等のブラッシュアップと新しいメニューの開発に取り組んでいく。



プロジェクト名	しまの自然魅力開発プロジェクト
プロジェクト概要	本町の最大の魅力である海や山などの四季折々の自然の魅力を情報発信するとともに、自然を活かした体験プログラムの開発に取り組んでいく。



プロジェクト名	宿泊促進滞在プラン開発プロジェクト
プロジェクト概要	お客様に「もう一泊」して頂けるように、既存の星空ツアーなど「朝や夜、その時でないと体験できない」朝型・夜型体験プログラムを造成する。



方向性3 交通基盤の整備と広域連携の推進

施策6 交通アクセスの利便性の向上

実施主体	観光協会・行政	☒	民間事業者	☐	町民	☐
------	---------	----------------------------------	-------	-----------------------	----	-----------------------

プロジェクト名	島内周遊整備プロジェクト
プロジェクト概要	観光客が島内を周遊しやすいように、今後も継続して誘導板の整備を図っていく。

プロジェクト名	交通アクセス情報発信プロジェクト
プロジェクト概要	本町への航路は、青方港、有川港、鯛ノ浦港、奈良尾港など複数の港に分散しており、レンタカーを借りる店舗と返却する店舗が異なる場合などは特に旅程が複雑となるため、観光物産協会や町のホームページにおいて分かりやすい交通アクセスの情報発信を行い、お問合せに対して適確に対応できるよう受入体制の整備に取り組んでいく。併せて、各種検索システムへの交通システムの情報掲載に取り組んでいく。 

方向性4 世界遺産等を中心とする歴史文化を活用した観光の推進

施策7 世界遺産等の価値やストーリーを組み込んだ滞在型プランの造成

実施主体	観光協会・行政	☐	民間事業者	☒	町民	☐
------	---------	-----------------------	-------	----------------------------------	----	-----------------------

プロジェクト名	祈りの島魅力開発プロジェクト
プロジェクト概要	世界遺産の登録を目指す教会群をはじめ、本町の歴史や文化の魅力を感じることが出来るように、テーマ性やストーリー性を考慮した体験プログラムや着地型観光商品の開発・情報発信に取り組んでいく。世界遺産登録をきっかけに本町を訪れた観光客が、一度きりの通過型観光で終わらずに、何度もリピートして、じっくり滞在しながらキリシタン関連遺産の学習を深めていけるような「学習型旅行」に繋がるようにする。また、「祈り」という体験を通じて「癒し」を感じることが出来るような体験型プログラムを造成する。 

プロジェクト名	国境の島の古代の物語発信プロジェクト	
プロジェクト概要	本町と壱岐市、対馬市、五島市は連携して日本遺産に登録している。古代や中世に「国境の島」として東アジア外交の最前線の一つであった歴史を物語る文化財を活かし、まずは島内外の両方で観光客向けの周知拡大の取り組みを行い、島内周遊スポットとして周知・来訪増加を図る。	

プロジェクト名	重要文化的景観を活用した魅力開発プロジェクト	
プロジェクト概要	本町は、「崎浦の五島石集落景観」と「北魚目の文化的景観」の2つの地区が重要文化的景観に選定されており、町内に2つの選定地区を有するのは全国的にも珍しく、この島の歴史的・文化的魅力を活かした滞在プランの開発に取り組んでいく。	

プロジェクト名	ジオサイトの魅力開発・発信プロジェクト	
プロジェクト概要	五島列島は、日本列島がユーラシア大陸から分離した記憶を地形や地質にとどめている。このような壮大な自然景観を活かし、観光客向けの周知拡大に取り組み、島内周遊スポットとして周知・来訪増加を図る。	

方向性5 外国人観光客の誘客拡大

施策8 外国人観光客に対して訴求力のある素材の発掘、「和の魅力」の提供

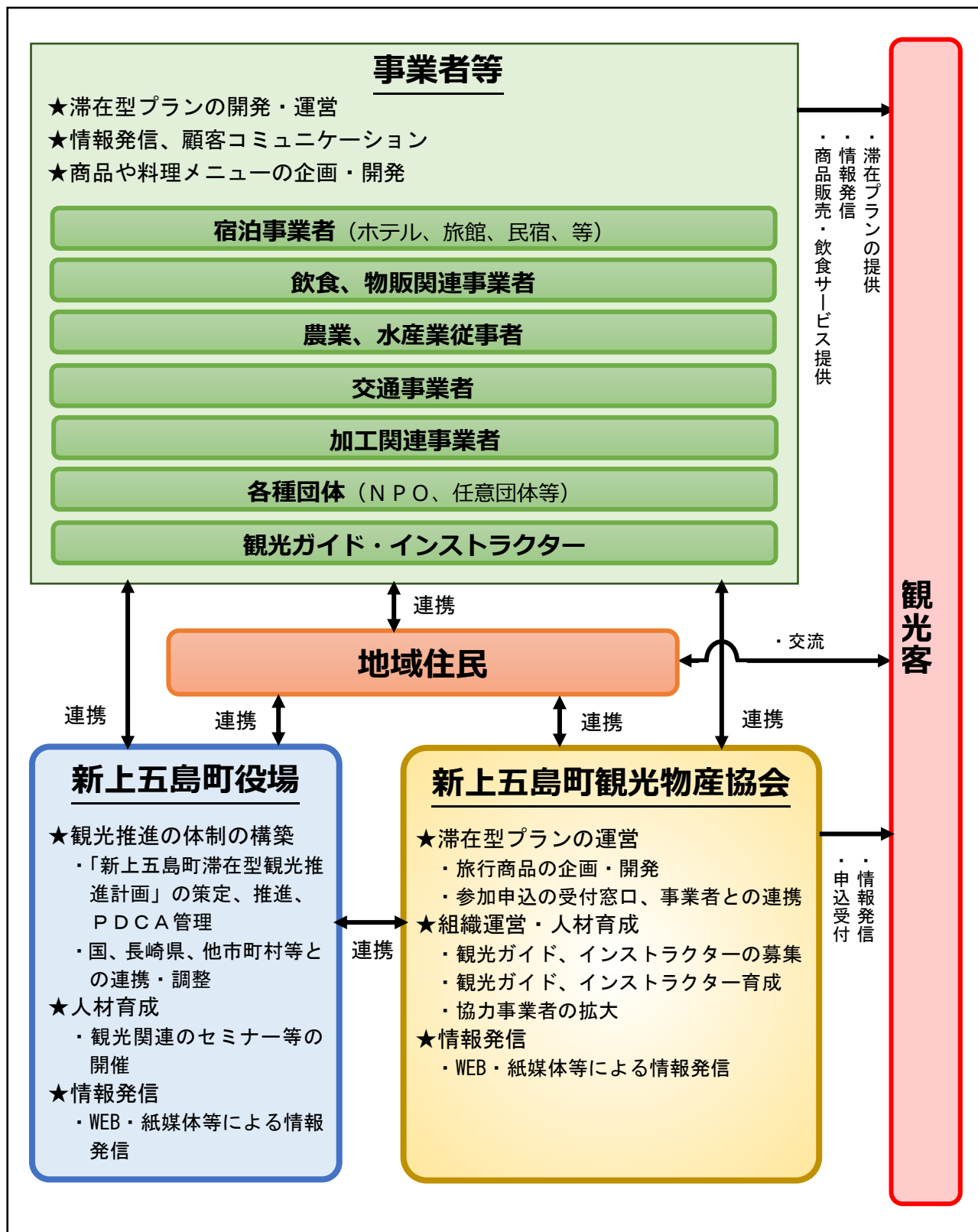
実施主体	観光協会・行政	☐	民間事業者	☒	町民	☐
------	---------	-----------------------	-------	----------------------------------	----	-----------------------

プロジェクト名	外国人観光客向け体験プログラムづくりプロジェクト	
プロジェクト概要	日本人にとっては「当たり前」の生活文化や習慣でも、外国人にとっては非日常の観光資源となり得ることから、「和の魅力」や「離島ならではの生活文化」等に触れることの出来る体験プログラムを開発・提供する。	

プロジェクト名	外国人観光客受入体制整備プロジェクト	
プロジェクト概要	事業者や町民が、安心して外国人とコミュニケーションを行うことが出来るように、コミュニケーションを助けるためのツールの導入や、外国人対応に関するセミナーの開催等を行う。	

6. 観光客受入体制

本計画の実現化にあたっては、下図のような推進体制を構築し、役割分担を明確にしながら各種のプロジェクトに取り組めます。



7. アクションプラン

施策を実行するにあたって、「観光物産協会・行政」及び「民間事業者」「町民」それぞれが果たすべき役割の分担と、施策を集中的に実施する時期を下表の通り設定します。

方向性	施策名	役割分担			実施時期				
		観光物産 協会・ 行政	民間 事業者	町民	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年
1. 観光産業の高度化	施策1 多様なメディアを活用した 情報発信	◎	○	○	体制強化	継続的な情報発信			
	施策2 人と人が繋がる観光・交流 の推進	○	◎	○	体制強化	継続的な取組み			
	施策3 地域経済活性化の仕組みづ くり	○	◎		仕組みづくり		継続的な取組み		
2. 観光産業の活性化と人材育成	施策4 観光を支える人づくり	◎	○	○	セミナー等の開催		継続的な取組み		
	施策5 体験型・交流型観光の推進	○	◎	○	滞在プランの開発		継続的な取組み		
3. 交通基盤の整備と広域連携の推進	施策6 交通アクセスの利便性の向 上	◎			世界遺産登録に伴う観光 客増加への対応		継続的な取組み		
4. 世界遺産等を中心とする歴史文化を活用した観光の推進	施策7 世界遺産等の価値やストー リーを組み込んだ滞在型プ ランの造成	○	◎		滞在型プランの造成		継続的な取組み		
5. 外国人観光客の誘客拡大	施策8 外国人観光客に対して訴求 力のある素材の発掘、「和の 魅力」の提供	○	◎	○	滞在型プランの造成		継続的な取組み		

8. 目標の設定と管理

(1) 目標の設定

本計画の取組の成果を客観的に把握・評価するために、下表のように、「目標」を定め、定量的な「指標」を設定します。

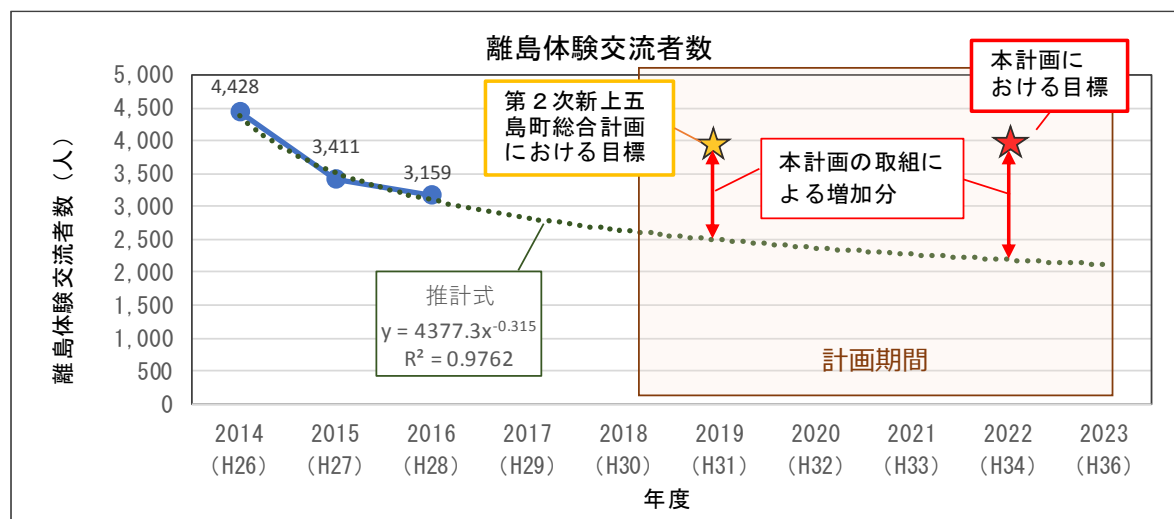
目標	指標	基準値	目標値	増加分	備考
目標1 滞在型プランの開発	滞在型プランの数	26 プラン (2016(平成28)年度)	31 プラン (2022年度)	5 プラン	
目標2 体験交流型観光の促進	離島体験等交流者数	3,159 人 (2016(平成28)年度)	4,000 人 (2022年度)	841 人 (基準値比26.6%)	第2次新上五島町総合計画における目標「4,000 人(2019(平成31)年度)」
目標3 滞在したくなる観光の推進	観光客延数	261,522 人 (2016(平成28)年)	295,000 人 (2022年)	33,478 人 (基準値比12.8%)	
目標4 観光による地域経済の活性化	観光消費額	4,506 百万円 (2016(平成28)年)	5,712 百万円 (2022年)	1,206 百万円 (基準値比26.8%)	新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略における目標「5,388 百万円(2019(平成31)年)」

1) 目標1の考え方

滞在型プランを、毎年度1プランずつ増加させ、目標年度までの5年間で5プラン増加させることとします。今後、既存の滞在型プランを見直した結果、プランが廃止されることも考えられるため、純増分(=新規開発プラン数 - 廃止されたプラン数)として5プラン増加させることを目標値とします。

2) 目標2の考え方

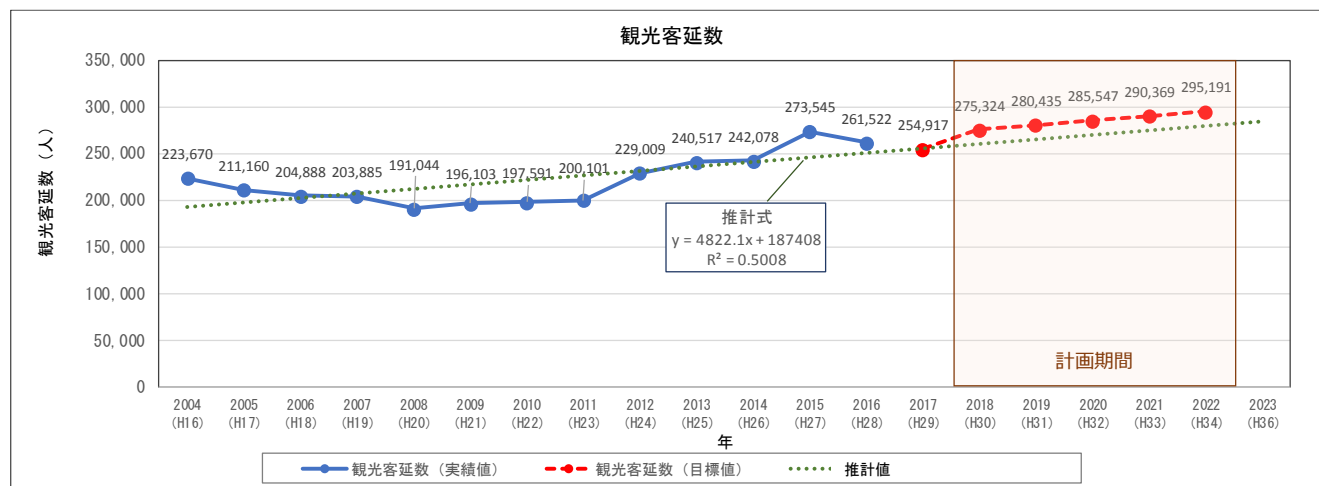
離島体験交流者数は、2014年度から2016年度にかけて減少傾向にあり、今後、同様のトレンドで推移すると、目標年である2022年には2,191人になると推計されます。本計画の取組みを実施することにより、「2019（平成31）年度に4,000人を達成する」という「第2次新上五島町総合計画」の目標を達成し、本計画の目標年度である2022年度にも4,000人を達成することを本計画の目標値とします。



3) 目標3の考え方

本町の2004（平成16）年から2016（平成28）年にかけての観光客延数は増加傾向にあり、今後同様のトレンドで推移すると、下記グラフの「推計値」のように推移すると推計されます。

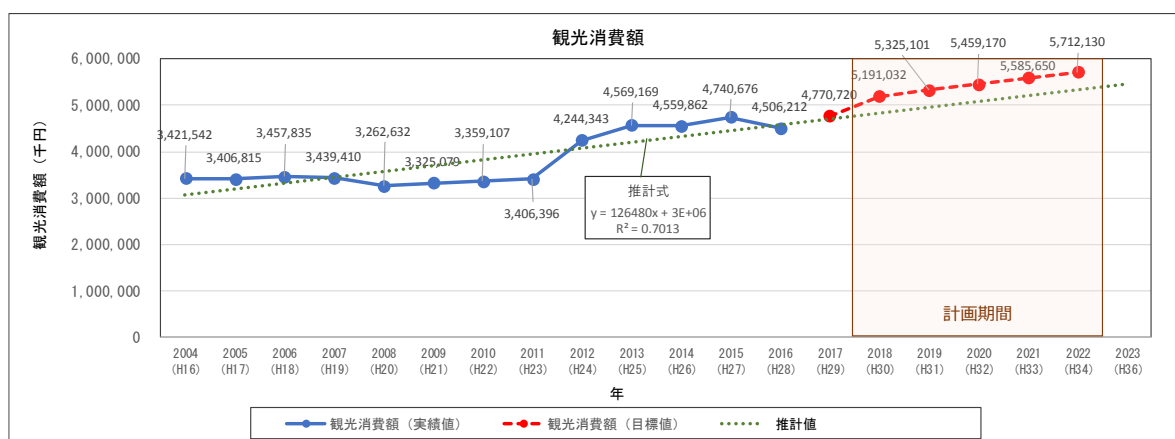
世界遺産登録が地域にもたらす波及効果として、本町の場合、観光客数が1年あたり6%増加すると推計されています（平成19年 ながさき地域政策研究所）。世界遺産登録と合わせて本計画の取組みを実施することにより、顧客満足度を高め、リピーターを増加させるなど、世界遺産登録効果を登録年以降も持続させることを目指し、計画期間中の目標値を下記グラフの「観光客延数（目標値）」のように設定します。



4) 目標4の考え方

新上五島町の2009（平成21）年から2016（平成28）年にかけて観光消費額は増加傾向にあり、今後同様のトレンドで推移すると、下記グラフの「推計値」のように推移すると推計されます。

世界遺産登録が地域にもたらす経済波及効果として、本町の場合、観光客数が1年あたり6%増加すると推計されています（平成19年 ながさき地域政策研究所）。世界遺産登録と合わせて本計画の取組みを実施することにより、観光客の満足度を高め、観光客数の増加を観光消費額の増加に繋げるなど、世界遺産登録効果を登録年以降も持続させることを目指し、計画期間中の目標値を下記グラフの「観光消費額（目標値）」のように設定します。



（2）目標の管理

本計画に記載された施策・事業については、計画通りに実行されているかの進行管理や、施策の効果検証を行います。また、効果検証の結果を踏まえて、次年度の施策や予算案の策定を行うPDCAサイクルに基づく実務を実践していきます。

具体的には、計画に基づき事業の実施主体で実行（Do）した結果を、「滞在型観光推進計画作成委員会」が検証（Check）し、「滞在型観光推進計画作成委員会」が改善策を検討（Action）し、その結果を「新上五島町滞在型観光推進計画」に担当課が反映（Plan）させます。



9. 資料編

(1) 新上五島町滞在型観光推進計画作成委員会

1) 会則

新上五島町滞在型観光推進計画作成委員会会則

1. 目的

滞在型観光の推進による宿泊促進及び交流人口の拡大を図るため、本町に「もう一泊」したいと旅行者に思わせるような滞在時間を延ばす効果のある島の素材を活用した滞在プラン（体験プログラムや観光メニュー、着地型旅行商品など）の推進計画と、世界遺産登録を見据えた観光客受入体制の計画、アクションプランの作成など具体的に実行性のある「新上五島町滞在型観光推進計画」（以下、「計画」という。）を策定することを目的とする。

2. 内容

- ① 滞在型観光推進計画の策定に関すること
- ② 滞在型観光推進計画の推進に関すること
- ③ その他滞在型観光推進計画の策定に必要な事項に関すること

3. 構成

- ① 観光関係団体、宿泊施設の代表者
- ② 体験事業者
- ③ 旅客船交通事業者及び島内交通事業者
- ④ 有識者
- ⑤ 役場職員
- ⑥ その他必要と認められる者

4. 委員長及び副委員長

- ① 委員長及び副委員長は、委員の互選による。
- ② 委員長は、部会を総理する。
- ③ 委員長が不在のときは、副委員長が職務を代理する。

5. 庶務

委員会の庶務は、観光商工課において行う。

6. その他

この会則に定めるもののほか、必要な事項は、委員会に諮るものとする。

2) 委員

新上五島町滞在型観光推進計画作成委員会名簿

氏名	団体名（役職）	備考
安 永 佳 秀	観光商工課長	委員会委員長
田 中 太 之	新上五島町観光物産協会長	委員会副委員長
清 水 英 次	新上五島町観光物産協会事務局長	
浜 辺 文 郎	新上五島町商工会事務局長	
道 津 和 子	上五島地区旅館組合長	
川 脇 高 志	九州商船（株）営業部副部長	
野 口 哲 也	（株）五島産業汽船総務部長	
森 林 信 吉	野母商船（株）福岡支社営業課長	
須 藤 則 浩	西肥自動車（株）新上五島営業所長	
本 村 覺 二	上五島観光交通（有）代表取締役	
新 井 常 三	上五島地区タクシー協会長	
青 山 一 信	上五島ふるさとガイドの会長	
松 園 文 策	（有）松園水産代表取締役	定置網体験
今 田 哲 也	五島ダイビングセンター・ナイスばでいー代表	ダイビングセンター
川 口 敏 博	新上五島町振興公社事務局長	つばき体験工房
犬 塚 忠 生	新上五島町椿木工技術振興会長	
平 義 彦	新上五島町産業サポートセンター長	
田 平 一 吉	九州商船滞在型事業コーディネーター	
峯 昭 市	九州商船滞在型事業コーディネーター	
川 崎 謙	九州商船滞在型事業コーディネーター	
岩 永 和 久	九州商船滞在型事業コーディネーター	
小 川 邦 夫	九州商船滞在型事業コーディネーター	
近 藤 繁 樹	九州商船滞在型事業コーディネーター	
竹 内 章	地域おこし協力隊	
竹 内 紗 苗	地域おこし協力隊	
王 成	地域おこし協力隊	
湯 川 直 基	文化財課長	

(2) 調査資料等

1) R e 島プロジェクト

①次の新上五島旅ディスカッション

新上五島町を含む4市2町（福岡市、対馬市、壱岐市、五島市、新上五島町、屋久島町）は、平成28年度より「R e 島プロジェクト」（福岡市・九州離島広域連携事業）に取り組んでいます。平成28年度は、マーケティング調査や連携プロモーションが実施され、本町においても観光関係者等によるディスカッションが開催されました。本町の独自イメージの方向性として、『キリスト教遺産を活かし、大人が、穏やかに、のんびり楽しみたいくなる島へ』という方向性が提示されました。

新上五島町 御中

＜配布用＞

次の新上五島旅ディスカッション

2017年2月17日
御電通九州
dentsu

<世の中の流れ>

sight seeing ⇒ sight feeling

「暮らすように旅する」「観光から旅へ」という風な言葉に象徴されるが、旅行者の観光スタイルは、インターネット等メディアの普及により世界各地の写真や動画が見られるようになった背景もあり、sight seeing（名所を見る観光）から、その土地の暮らし・食・人を感じるsight feeling（感じる観光）に変化している。また、その地元を感じる観光、つまり、**地元で暮らす人との出会い等ローカルな生活体験**が、繰り返し、その場所に訪問する状況をつくりそれが移住に繋がる社会風景が散見される。

名所を巡る観光 ⇒ **じっくりその土地を体験する（出会う）観光**
⇒ 繰り返し訪れる ⇒ そして、移住へ

より、**Longで、Localで、Deepな旅へ**

日本人旅行者向け調査を中心に。。

対象者	①各島訪問経験者 ②各島訪問未経験者だが、観光旅行に積極的な人					
サンプル数 割付	2,500ss ※20～69歳男女個人 ※福岡県以外は 関東・関西・福岡県以外の九州とする	各島訪問経験者		未経験者		
			福岡県在住	福岡県以外	福岡県在住	福岡県以外
		屋久島	100	200	500	500
		奄岐	100	200		
		対馬	100	200		
		上五島	100	200		
		下五島	100	200		
		合計	1500		1000	
					総合計	2500

上五島訪問経験者545人

✓ 来訪意向度は？

14

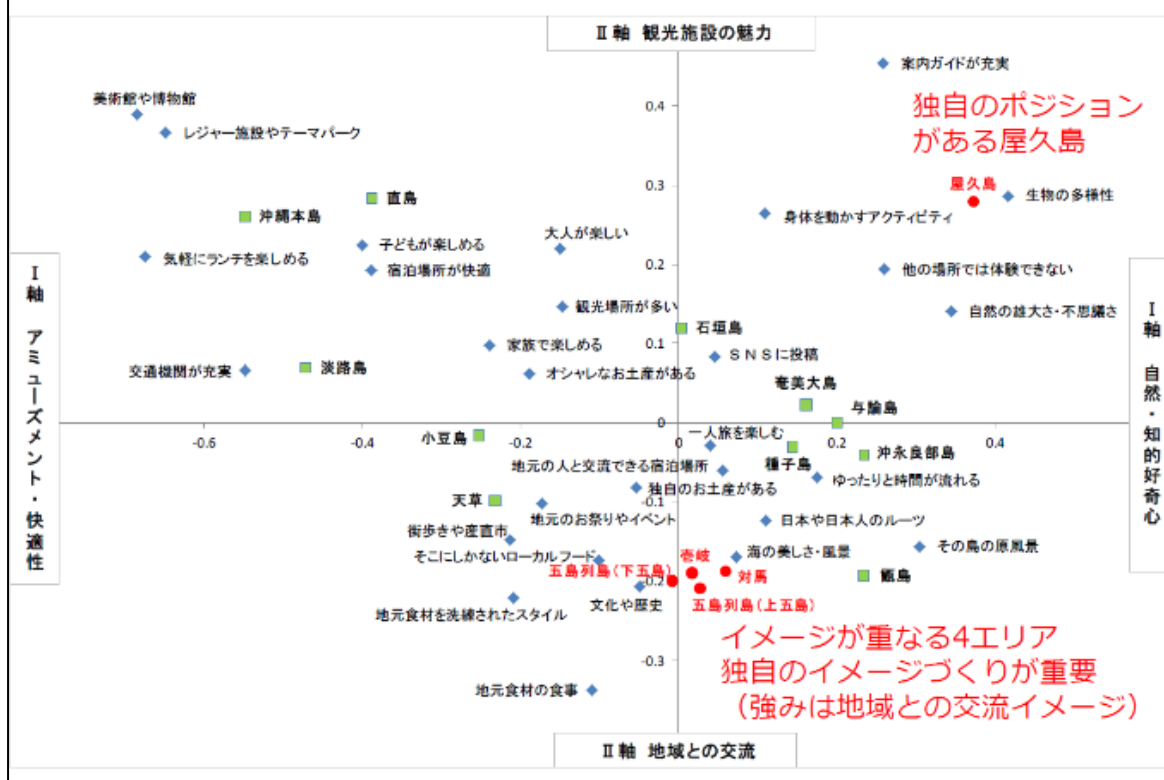
	屋久島	杵岐	対馬	上五島	下五島
* 各島いずれにも来訪経験が無い人（1000人）					
認知	93.3%	81.1%	85.7%	66.6%	62.9%
来訪意向	65.0%	35.9%	31.1%	28.7%	27.5%

* 各島来訪経験者

訪問者の リピート 意向	56.4%	31.6%	29.2%	31.0%	34.0%
	また行きたい 屋久島！				

島のポジショニングイメージを俯瞰する

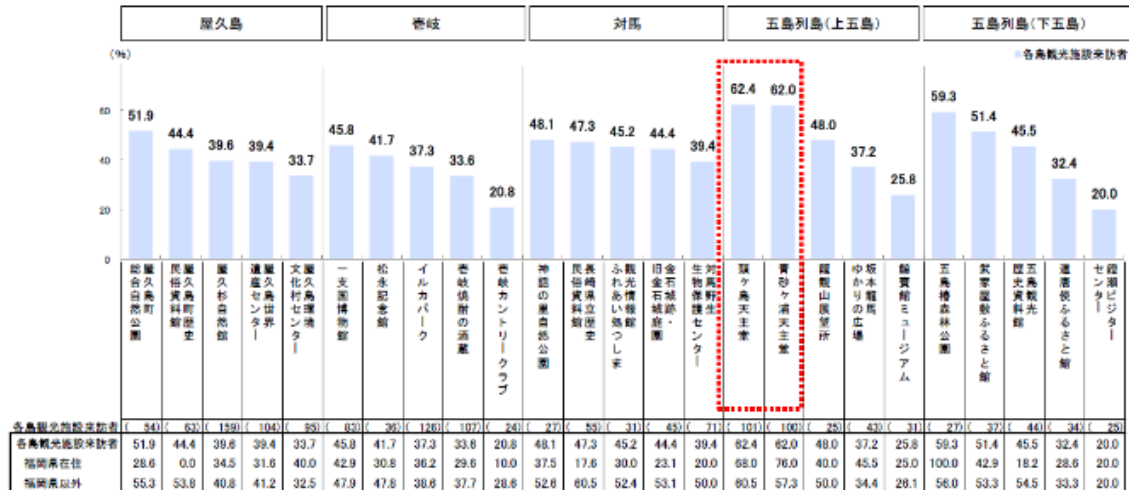
16



✓ 上五島の独自イメージの方向性は？①

17

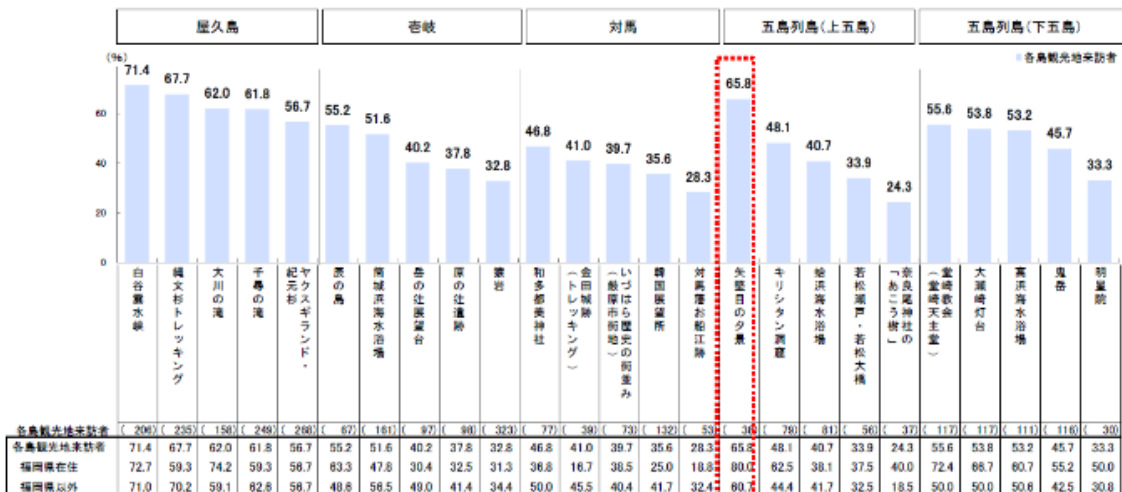
訪問者の満足度が高い「頭ヶ島天守堂」「青砂ヶ浦天主堂」の教会群は他の観光施設を押さえNO. 1



✓ 上五島の独自イメージの方向性は？②

18

サンプル数は少ないが、訪問者の矢堅目の夕景は満足度が高い



✓ 上五島の独自イメージの方向性は？③

19

確かに、**キリスト教関連×夕景**は、日本では見られない風景
他のエリアにはない五島列島の価値ある独自性

(写真は五島市 東京女子旅ブログより)

マリア様と十字架を前にしてみるサンセットは、
今まで見たこともない、神聖な絶景だった。
ゆっくりと変わっていく空の色。遠くに聞こえる波の音。やさしい風。
こんな素敵なところで眠れるご先祖様たちが、ちょっぴりうらやましくもある。どろん。



✓ 上五島の独自イメージの方向性は？④

20

上五島（動画）の魅力度の高いカットは？



(光がないので)
星がきれいに見える風景
漁火と星の区別がつかない。



夕日をみながら
ゆったりできるホテル



静かな入り江の風景

静かに
流れる時間

＜旅行先重視点 2500人＞ ＊ 30項目中の上位

1位 地元の食材を使った食事が美味しい（42.9%）

2位 海の美しさ風景を楽しむ（36.9%）

3位 宿泊場所が快適（36.2%）

4位 自然の雄大さや不思議さを感じられる（35.6%）

5位 ゆったりと時間が流れるままを楽しむことができる（32.2%）

＜上五島訪問者評価（545人）＞

1位 海の美しさ風景を楽しむ（36.9%） ＊差別化×

2位 地元の食材を使った食事が美味しい（25.3%） ＊差別化△

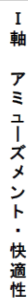
3位 ゆったりと時間が流れるままを楽しむことができる（19.1%） ＊差別化○

4位 文化や歴史を感じることができる（18.3%） ＊差別化○（世界遺産登録）

上五島の来訪意向度をUPさせる上五島の勝ち処（価値ある独自性）とは何か？

★新上五島町

→キリスト教遺産を活かし、
大人が、穏やかに、のんびり
楽しみたいくなる島へ



働き盛りの男性が多く、旅行に求めるためわり意識は非常に低い。年代層が高いため、各島への来訪経験率は高いが、各島への来訪意向は低い。今後のターゲットにはなりにくいクラスターと言える。



年齢の高い女性がやや多く、年間旅行回数も多い。
 独自の自然や、地元食材を使ったグルメを堪能したいとの意識が強い。また、宿泊場所の快適さ、お土産も重視しているが、宿泊、食費などのコストは抑え気味で、バランスを重視し、質の旅を楽しむタイプと言える。各島への来訪意向はクラスター4に次いで高く、特に「屋久島」「杵岐」への来訪意向が高い。観光資源を周知すると、いずれの層に対してとも来訪意向が上がる。



高年代層が多く、年間の旅行回数も多い。
自然の中で、むやみに観光地化されていない原風景を楽しみ、ゆったりと時間が流れることを楽しみたいというニーズを有する。
各島への来訪経路率・来訪意向率と高いが、特に「上五島」「下五島」への来訪意向が高い。観光資源認知度も同様の傾向である。



若い人たちが多いため、旅行にはアフィリエイトを求めており、地元の人たちとのふれあいを必要としている。また、そこにしかない洗練された食材やおしゃれなレストラン・カフェが必要と考えている。

各島の半訪経験率は低いが、米訪意向率は非常に高い。いずれの島にとっても最も有望なクラスターと言える。

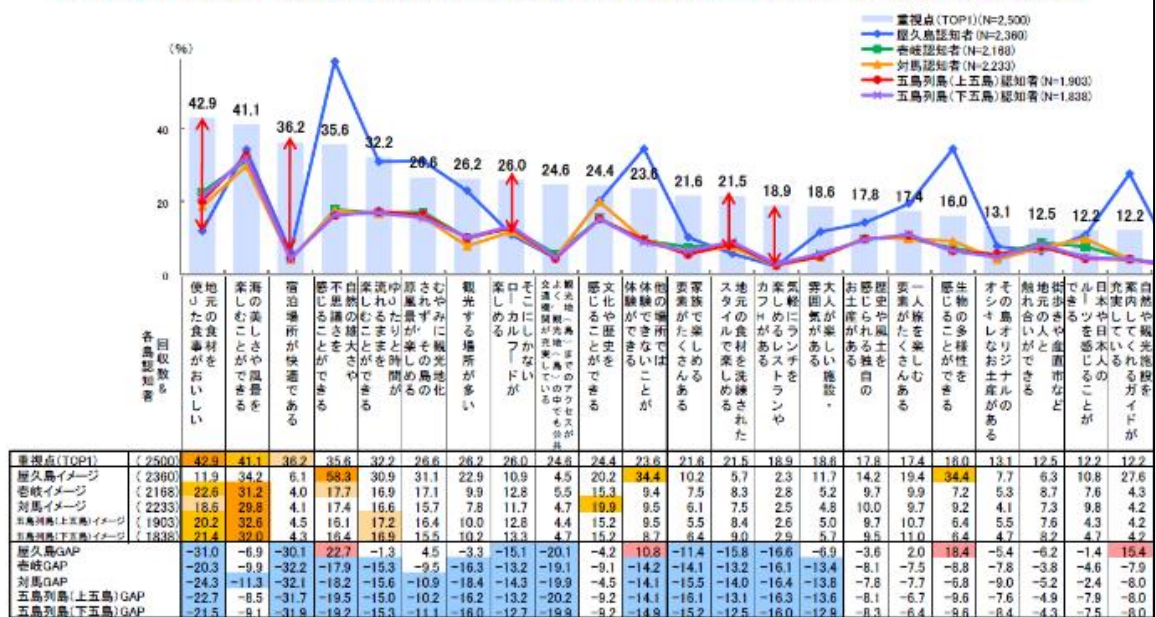


子育て世代の女性が多いため、旅行は年1回の家族旅行が中心。そのため、家族が楽しめる場所を必要としており、何より子供が楽しめるアクティビティは不可欠の要素。各島への来訪経路率・来訪意向率は低い。(いずれの島もファミリー向けと認知されていない)



(※一番お金も使う層)

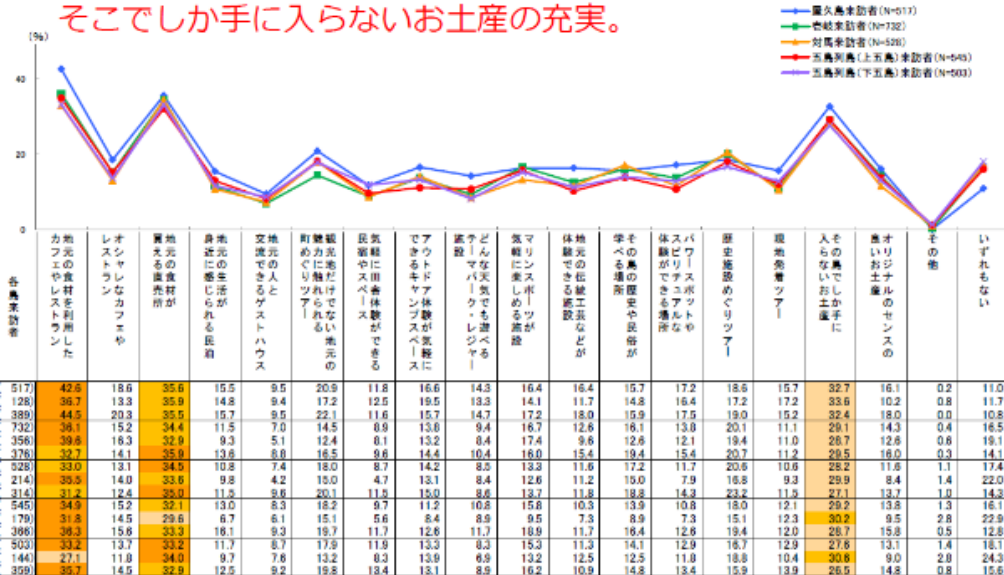
食の充実と宿泊場所の快適さは5エリア共通の課題



■各島に欲しいサービス

訪問経験者が欲しい

地元食材を利用したカフェ、レストラン、直売所。
そこでしか手に入らないお土産の充実。



外国人調査より抜粋

《参考 外国人》 39

福岡での旅慣れた外国人756人に聞いた写真調査でも
矢堅目の夕景は人気 No. 1

■五島列島【上五島】の魅力 (n=756)

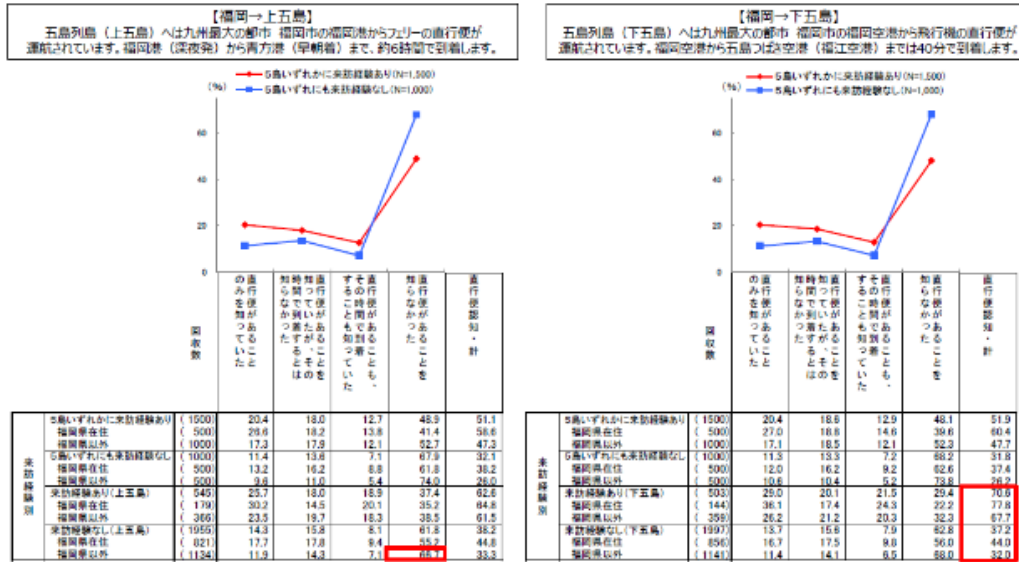
問7.【別紙資料を提示】資料をご覧になって、離島のどこに魅力を感じましたか？(各資料から、それぞれ3つまで選択して番号で記入)



- 【福岡→上五島】のフェリーの直行便は、上五島の来訪経験がなく、福岡県以外在住者で7割近くが認知していない。
- 【福岡→下五島】の飛行機の直行便は、同様に下五島の来訪経験がなく、福岡県以外在住者で7割近くが非認知。

■福岡空港・博多港からの近さの認知

Q14.以下の島へは、福岡空港や博多港から直行便が運航されています。このことについてあてはまるものをひとつだけお知らせください。



②新上五島町外国人旅行者に関する調査報告書

「R e 島プロジェクト」の「新上五島町外国人旅行者に関する調査」では、実際に韓国・中国・台湾からのモニターを招聘するモニターツアー（博多→上五島）を実施し、「コンセプト」や「ターゲット」「訴求コンテンツとPR」「受入環境整備」等についての提言が行われています。

モデルコース策定

3、新上五島町 訪日外国人訴求コンテンツとPRのポイント

メインコンセプト

「聖地巡礼」と海を眺めて心穏やかなる旅

モニターツアー実施前の想定通り、キリスト教徒が多い韓国人にとっての「聖地・教会めぐり」は関心を集めるコンテンツ。「隠れキリシタンはなぜそこまで信仰を守ることができたか、その歴史が残る聖地」は、キリシタンでなくても、旅を動機づける大きな要因になっています。

また、海を中心とした風景、空気感に癒されるのは台湾人、中国人はもちろん多くの外国人旅行者が魅力を感じるポイントです。

メインターゲット

- ①「聖地巡礼」を目指す宗教関係者およびキリシタンの韓国人
- ②教会巡りと自然の風景に癒される韓国人
- ③自然の風景と教会巡りに癒される台湾人
- ④自然の風景と教会巡りに癒される中国人、絶景の風景撮影目的など

以下、アンケートやヒアリングにより具体的な訴求ポイントを示します。

【1】訴求すべきコンテンツBest3

メインターゲットのランキング順に重視したポイントと内容を総合的に分析しました。

①「聖地巡礼」教会巡りー海と空のシチュエーションとともに

第一ターゲットである韓国人において、「聖地巡礼ー癒しの教会めぐり」というテーマで強く訴求できると考えられます。

キリシタンおよび神父さまなどの関係者による団体旅行はもちろん、キリスト教徒ではない韓国人にも、「癒しの旅」として書く可能性が高いです。

その他の外国人にとっては、教会と周囲の風景、清らかな雰囲気そのまます新上五島の印象となって、旅を動機づけるポイントです。

特に「頭ヶ島天主堂」と「桐教会」は、隠れキリシタンの歴史を体現するとともに、周囲の風景と溶け込む美しさが高い評価を得ています。

その他、「建築の美しさ」「教会内部のステンドグラスや装飾の美しさ」が訴求ポイントとして挙げられます。



6

モデルコース策定

3、新上五島町 訪日外国人訴求コンテンツとPRのポイント

②キリシタンワンド

船に乗り、美しい海をわたっていくというアクティビティの感覚もあり、洞窟の奥に潜んで信仰を守ったシチュエーションに改めて感動を覚える強力なコンテンツ。海の美しさと歴史のストーリーが一体となったスポットです。



③ホテルマルガリータ

宿泊施設は旅を誘引する大きな要素。このホテルは新上五島をシンボライズされたものであり、静かに海や朝陽、夕陽を楽しむというシチュエーションがあり、現在日本在住の外国人、特に欧米系も多いとのこと。

「ここに泊まりに来たい」というだけで、誘客できるコンテンツです。

宿泊施設によって行先を選ぶ傾向がある韓国人に、特に訴求できます。



7

3、新上五島町 訪日外国人訴求コンテンツとPRのポイント

【2】モニターの人気の高いコンテンツ

モニターが「コンテンツの魅力が高い」と評価したコンテンツです。

①桐教会

29ある教会の中でも、周囲の自然風景との溶け込み方から人気が高かったコンテンツ。海を見晴らしているロケーション、海から見える教会などが人気の秘訣。特に、中国人モニターが特に高く評価



②頭ヶ島天主堂

この教会周辺一帯の部落が世界文化遺産に申請されている教会であり、隠れキリシタンのストーリーがたくさん残されています。モニターはここから見る海の景色に心惹かれています。また賽銭箱があるユニークなエピソードなども台湾人をはじめ外国人に響きます。



③前田旅館の夕食、朝食

夕食、2日目の朝食ともこの地域ならではの料理がふんだんに登場。新鮮な刺身、お祝い膳のような器での提供に始まり、美味しい食べ方の説明はその島の奥深い文化まで理解できるもの。2日目の朝食に供された名物・五島うどんの「地獄炊き」が特に好評を挙げています。このような料理、心遣い、女将さんのもてなしはコンテンツとして魅力的ですが、宿自体は設備や予約の観点から、現実的な外国人の利用には問題があります。（POC）

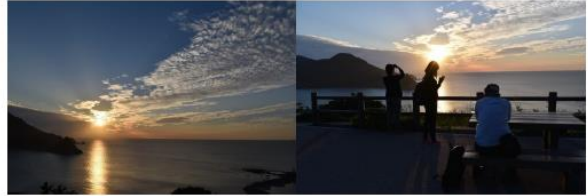


8

3、新上五島町 訪日外国人訴求コンテンツとPRのポイント

④夕陽スポット（白草公園）

美しい海に落ちる夕陽は、新上五島らしく「癒される」との評価。ゆったりと時間が過ぎるのを忘れるほどの癒しの力があります。ただし、公共交通機関では行きにくい場所であり、地図やアプリでのスポット案内も必要です。



※やがための駅

第一ターゲットである韓国人が、「行くべきスポット」として推薦しています。旅行に欠かせない「お土産購入スポット」、団体旅行が立ち寄る休憩スポットとして評価が高いですが、製造過程をみせてくれた手作りの「塩」についての説明や、多言語のPOPが少なくてわかりにくいなど改善の提案が多数あります。



9

3、新上五島町 訪日外国人訴求コンテンツとPRのポイント

【3】モニターによる新上五島のポイントとベストショット

①「聖地巡礼」を目指す宗教関係者およびキリシタンの韓国人 ランドオペレーター「ツアースタイル」理事 李賢淑

「隠れキリシタンの歴史、教会は、韓国人の教会関係者にとって福岡市から太古に遡って、わざわざ行く価値があり、「キリストの治癒ツアー（日本語そのまま、実際には「癒しの旅」）」として、お客様におすすめしたい。まわる教会の数は絞った方がよい。しかし、実際には福岡から行くツアーを「太古」で組むのは大変であり、福岡から行くとするは新上五島で1泊、五島で1泊といった日程でまわると充実していると思われる。本音では、韓国からチャーター便を発着させることが最も誘客しやすい。

写真に関してはなし

②キリシタンではなくても、教会巡りと自然の風景に癒される韓国人 ラフェエムD) キム・ジスク

東南アジアなどのリゾートまで行かなくても美しい海や自然を楽しめる。迫害を受けながら育った隠れキリシタンの歴史、仏教信者たちとの共生は興味深い、バラバラにならないようストーリーのある見せ方が必要。



10

3、新上五島町 訪日外国人訴求コンテンツとPRのポイント

【3】モニターによる新上五島のポイントとベストショット

③自然の風景と教会巡りに癒される台湾人

美しい海と自然にリラックスできる島。教会と歴史、建物、融合した文化を楽しむ島。キャッチコピーを挙げるとするなら「Sea paradise」「The island is yours」



④自然の風景と教会巡りに癒される中国人

「紺碧の海、青い空と自然の絶景がある新上五島。聖地巡礼に興味がなくとも、この地に残るキリスト教の歴史と風景に魅了される中国人は多いと思う。島ならではの食文化、料理も中国人にとって人気の出るポイント」



11

3、新上五島町 訪日外国人訴求コンテンツとPRのポイント

【4】モデルコースに盛り込むべき、おすすめのコンテンツ

今回のモニターツアーで訪問したスポットは、全体的に好評でコンテンツとしては「魅力的でない」という評価されたスポットはありませんでした。ここでは、「とてもいい」を2名以上集めたスポットの訴求ポイントを示します。

①教会群

新上五島に29ある教会のうち、特に評価の高かった「頭ヶ島天主堂」と「桐教会」(P8)

次に「土井ノ浦教会」と「青砂ヶ浦天主堂」が評価されています。

それ以外で、今回巡った教会は「大曾教会」「冷水教会」。

短い行程にあまり教会を盛り込み過ぎると、各教会のトピックや隠れキリシタンの歴史が希薄になるので、ある程度絞りこみ、ストーリーを作成することが肝要と思われる。



青砂ヶ浦天主堂



土井ノ浦教会



大曾教会



冷水教会

12

3、新上五島町 訪日外国人訴求コンテンツとPRのポイント

②食の魅力

新上五島の食、特に新鮮な海鮮類をメインにしたグルメは大きな魅力の一つです。

寿司も美味しいのですが、特徴や地の物を使ったエピソードがわからない限り特に記憶に残りません。そのようなストーリーを伝えることが肝要です。

まさに、前田旅館の夕食のように、地域の食文化や慣習を伝えることがポイントになります。

ホテルマルゲリータのイタリアンのように、和食以外の料理や肉料理を食べることができるのは、特に欧米系にとって喜ばれます。選択肢がある程度多いことが、滞在を延ばすことに奏功します。



いろは鮎

美味ではあるが、他の地域との特産の違いも感じられない。また、受入に関して、飛び込みの個人旅行者は難しい状況



前田旅館

想いと文化のこもった食事で量と内容とも十分であり、何より食べ方の説明を女将さんがされるのが、何より心に残るものでなし。

日本語が理解できない旅行者の場合は、その奥深さが理解できないのが難点



ホテルマルゲリータ

手作りのパン、地元の野菜や五島牛を使ったミートソースなど地産地消にこだわっていて、メニューにも表現されています

13

3、新上五島町 訪日外国人訴求コンテンツとPRのポイント

③サイクリング

当初の予定ではもっと長いコースを想定していたが、うどんの里で自転車を借り、蛤浜海水浴場までまちなかや住宅街を通過していくコースをサイクリング。

海岸の風景も素晴らしい、案内もあり、スムーズに楽しむことができたが、ガイドがない場合に、MAPを見ながらサイクリングするには、難しさも感じられます。

【課題】

サイクリングコースがわかるMAP、ナビゲーションシステムなどが多言語でないとモニターツアーと同様に周遊することは難しいと思われる。



④蛤浜海水浴場

オフシーズンのため、当初の行程表ではなかったが、サイクリングコースの一つとして立ち寄り、夏場の美しさを十分に感じさせるコンテンツとした。

後日のヒアリングからも「モデルコースに入れるべきスポット」と評価。台湾人モニターはベストショットに挙げています。



14

3、新上五島町 訪日外国人訴求コンテンツとPRのポイント

【4】入れてもいいコンテンツ

ここでは、モニター1名が「とてもいい」と評価し、モデルコースに入れても差支えないスポットの訴求ポイントを示します。

①大曾漁港のセリ見学

新上五島ならではの風景だが日本人でも「何を言っているかわからない」状態で、その活気を楽しむことはできるが、どのような仕組みなのか、新上五島で獲れる旬の魚が何なのか説明がないと魅力は半減します。ガイドや「漁師の朝飯」が個人でも楽しめるというコンテンツとして提供できます。特に、団体旅行においては、「漁師の朝飯」が含まれないと、わざわざ立ち寄るスポットとしては扱えないという意見がありました。



③あこ樹

自然の力を感じられるが、このスポットだけの魅力は弱いといえます。また、「夫婦で一緒に歩いたら幸せになる」などのストーリーが訪問するだけではわからないので解説が必要。Wi-Fiによるガイド（韓国語）では「無花果の木」になっていたとのこと。



④精油絞り体験

台湾、韓国とも女性には興味を惹かれる体験プログラム。商品の販売や、搾った油の使いなどが多言語であると希望者が増えると思われます。



⑤うどんの里

さまざまな商品があり、五島うどんの製造過程がわかるなど、物産館としては利用しやすいと評価されています。



15

4. 新上五島町 受入環境の整備について

総じてコンテンツの魅力が高い新上五島ですが、受入環境については、現実的に外国人個人旅行者が旅するには難しい側面があります。ここでは「福岡との交通」「二次交通・案内」「宿泊施設」「観光スポット」の4つのカテゴリにわけてチェックします。

【1】福岡との交通

①博多港、青方港

ほとんど外国語の表記がなく、アナウンスなども日本語のみで大変わかりにくい状況。英語を付記することが急務と考えられます。HPも多言語化されていないので、日本語がわかる外国人でないで購入しにくいシステム。



青方港では、早朝に著くため案内などもなく、夜が明けるまで待つしかありません。宿泊施設や行政の連携により、お迎え、案内機能を付加することが望まれます。

②フェリー「太古」

清潔で新しく、外国語表記やアイコンでの表示、スタッフの案内、フリーWi-Fiの設置など外国人旅行者も利用しやすい設備です。寝台も使い勝手がいいとの評価でした。「深夜～早朝」という運航時間帯は、好まれるものではないので、改善されると利用意向もさらに高まると考えられます。



【2】二次交通・案内

今回のモニターツアーでは車を利用しましたが、時間に余裕をもって行程を組むと、バスやレンタサイクルによる周遊も可能です。訴求ポイントのメインである教会は、多くのスポットを周遊するよりポイントを絞って、各々のストーリーを際立たせることが肝要になっています。Wi-Fiによるガイダンスや看板での言語表記、道路標識などは多言語で、整っているといえます。ただMAPや時刻表などはこれからの整備課題といえます。



16

4. 新上五島町 受入環境の整備について

【3】宿泊施設の状況

今回は、「前田旅館」に宿泊、「やがための宿」「ホテルマルゲリータ」「ホテルマリニピア」の3軒を視察しました。

「オンラインで予約できる」＝「外国人個人旅行者が利用できる」という観点でいうと「ホテルマルゲリータ」しか、合格ラインにありません。

その他は、行政やランドオペレータ、交通事業者などが取り次いだ団体もしくはグループをやっと受け入れることができる状況になっています。下記で細かく見ていきましょう。

①ホテルマルゲリータ

明確なコンセプト、高いデザイン性で「新上五島＝リゾート」を体現しています。海外からの予約サイトに登録しており、現在外国人旅行者も5パーセント滞在しています。館内の設備もアイコンや表示でわかりやすく、宿泊者なら早朝送迎も実施。新規の宿泊施設も造成中とのことで、誘致の目玉になる宿といえます。



②前田旅館

料理、女将さんを中心としたホスピタリティは素晴らしい、行政スタッフとタッグを組んだ案内や表示などはわかりやすい点は評価できます。しかし、部屋に入浴施設がないだけでなく、トイレも共同という造りは、低質な宿を好む個人旅行者にとっても、ゲストハウスと比較すると割高感もあると思われます。何より、日本の宿泊サイトにも登録されていないので、個人旅行者を受け入れるのは難しいといえます。ゲストハウスを造成予定ということで、完成が望まれます。いずれにしろ、海外から予約できるオンラインサイトへの登録も今後必要になります。



17

4. 新上五島町 受入環境の整備について

③やがための宿

韓国団体などを受入れているとのこと。部屋の造りやステンドグラスのあしらいなども美しく、釣り竿を無料で貸し出すなどのサービスも高評価、レストランでの団体対応も可能であることから、受入体制はできています。海外からのブッキングサイトに登録しておらず、海外の個人旅行者が予約することは難しいです。



④ホテルマリニピア

蛤浜海水浴場に近いというロケーション、宴会場などを要し、学生や団体の旅行に適したホテル。早朝到着の送迎も行っており、受入体制は十分だと思われます。ただし、海外からの個人旅行者は予約できないし、新上五島に到着してから案内誘導でも、シーズンには部屋が埋まっていることが予想されるので、利用が難しいです。



【4】観光施設・体験プログラムの状況

メインとなる「聖地巡礼」の教会が、開放たれていて、いつでも見学できるという体制は、大きな魅力であるといえます。しかし、どのように入ることができるのか、内部は撮影禁止であることなどが大変わかりにくく、今後外国人旅行者が増えいくとトラブルになる可能性があります。

またWi-Fiによる案内も不安定であることが多く、紹介内容についても精査する必要があります。

表示自体は多言語でなされていますが、単に説明で終わっていることが多く、心動かすストーリーを端的に表現したいところです。

体験プログラムも少なく、また海外からオンラインで予約可能なところはなく、当日の申込みも難しいので、実質的には利用できない状況です。

18

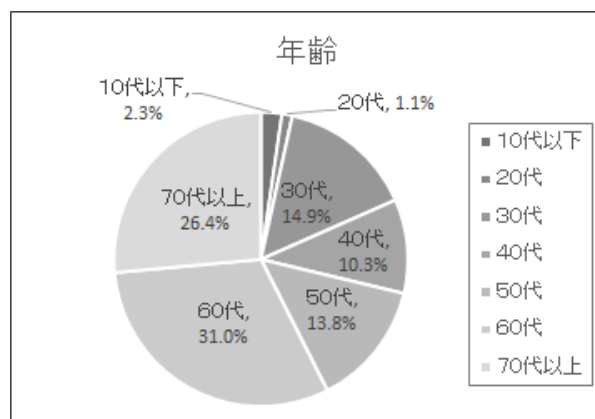
2)「五島列島キリシタン物語」参加者アンケート

①調査概要

「平成 29 年 五島列島キリシタン物語～上五島編」の参加者に対するアンケート調査を平成 29 年 4 月～10 月の期間に実施し、87 件の有効回答を得た。

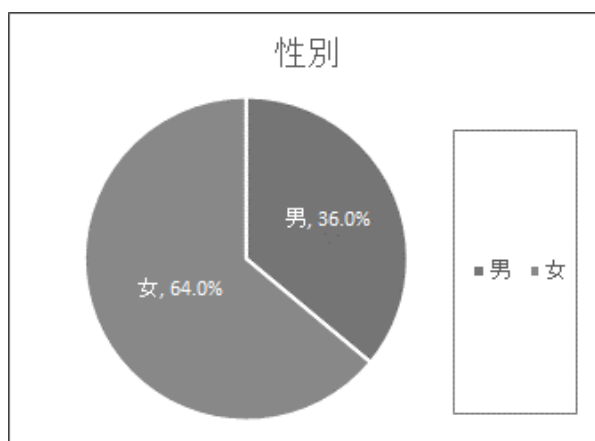
②年齢

参加者の年齢を見ると、「60 代」が 31.0%と最も多く、次いで、「70 代以上」(26.4%)、「30 代」(14.9%) となっている。



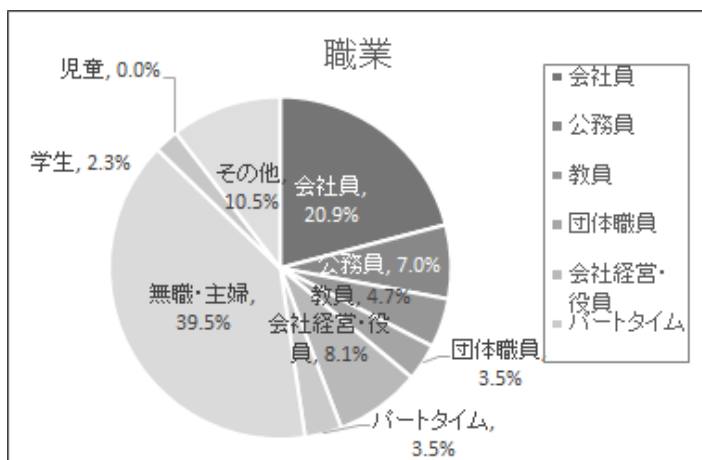
③性別

参加者の性別を見ると、「女性」が 64.0%となっており、「男性」の 36.0%よりも多くなっている。



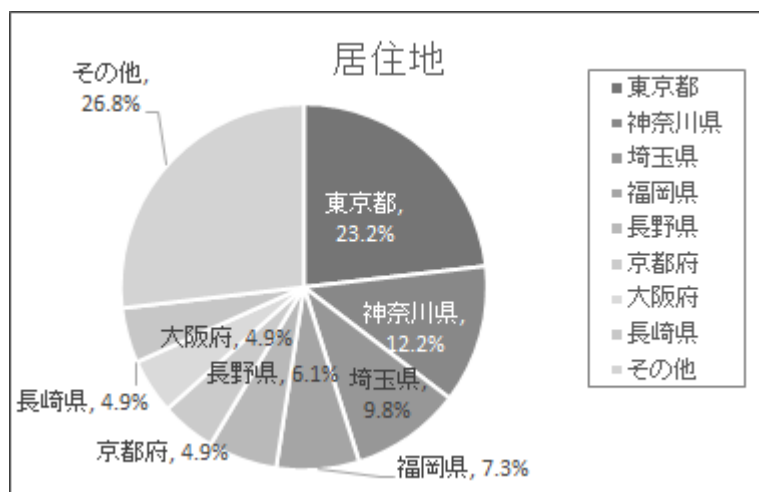
④職業

参加者の職業を見ると、「無職・主婦」が 39.5%と最も多く、次いで、「会社員」(20.9%)、「会社経営・役員」(8.1%) となっている。



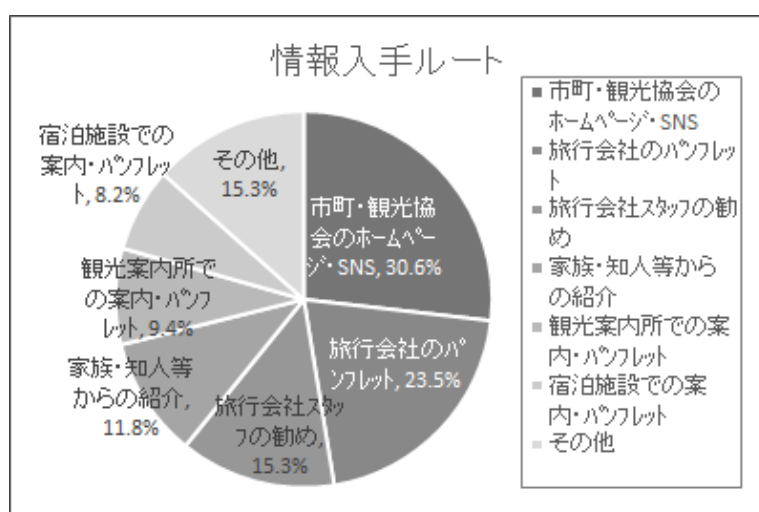
⑤居住地

参加者の居住地を見ると、「東京都」が23.2%と最も多く、次いで、「神奈川県」（12.2%）、「埼玉県」（9.8%）となっており、首都圏が多い。



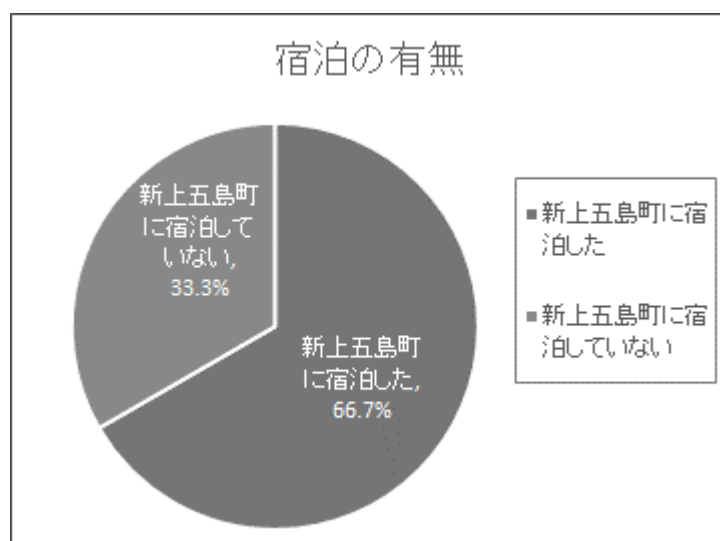
⑥情報入手ルート

参加者が、本ツアー企画の情報をどのようなルートで入手したかについては、「市町・観光協会のホームページ・SNS」が30.6%と最も多く、次いで、「旅行会社のパンフレット」（23.5%）、「旅行会社スタッフの勧め」（15.3%）となっている。



⑦宿泊の有無

参加者が新上五島町に宿泊したか否かについては、「宿泊した」（66.7%）が、「宿泊していない」（33.3%）を上回っている。



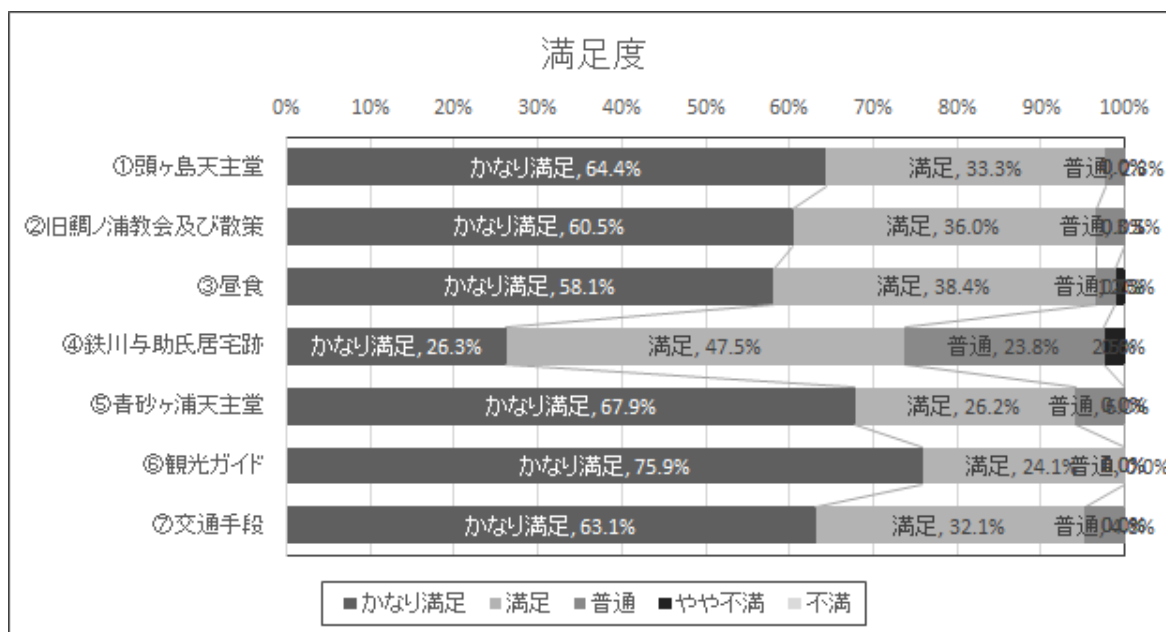
⑧満足度

ツアー内で巡った観光地に関する満足度については、「①頭ヶ島天主堂」「②旧鯛ノ浦教会及び散策」「⑤青砂ヶ浦天主堂」のいずれも、「かなり満足」と「満足」を合わせると9割を超えている。「④鉄川与助氏居宅跡」については、「普通」が23.8%となっている。

「③昼食」については、「かなり満足」と「満足」の計が9割を超えている。

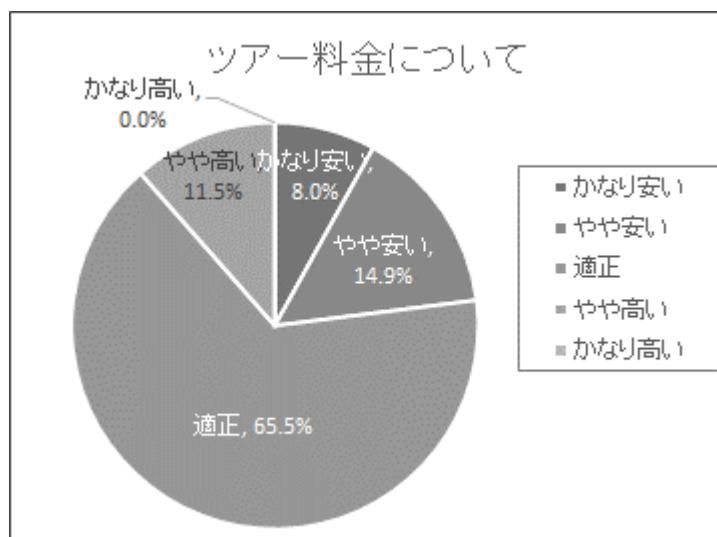
「⑥観光ガイド」については、「かなり満足」と「満足」を合わせると100%となっている。

「⑦交通手段」については、「かなり満足」と「満足」の計が9割を超えている。



⑧ツアー料金について

今回のツアー料金（8,800 円）の評価については、「適正」が65.5%と最も多く、次いで、「やや安い」（14.9%）、「やや高い」（11.5%）となっている。



(3) 用語集

用 語	意 味
滞在型観光	滞在型観光とは、1箇所に滞在し静養や体験型を始めとしたレジャーを楽しむこと。またはそこを拠点に周辺の観光を楽しむレジャー形態のこと。海外旅行はリゾート地や都市で滞在型観光を楽しむ人が多い。国内旅行でも観光地を駆け足で見て回る周遊型観光が少なくなり、近隣温泉への1泊旅行、リゾート地や都市での滞在型旅行が多くなってきている。1箇所に滞在することは、経済波及効果や地元との交流、リピーター化が期待できることから、受け入れ地では滞在型観光の促進を提唱し、滞在者が楽しめる体験プログラムなどの開発に力を入れている。
周遊型観光	周遊型観光とは、名所・旧跡の見学を目的に、複数の観光地を移動し宿泊地を変えて行く旅行形態。近年は、周遊型旅行より都市型観光や温泉地やリゾート地での滞在型観光、1泊旅行が多くなってきている。 国内の宿泊施設は周遊型観光に対応した1泊2食スタイルの受入れ体制となっているところが多かったが、観光そのものが成熟期を迎えた現在は、多様化する旅行者ニーズへの対応から泊食分離や連泊スタイルの宿も出てきている。
着地型旅行商品	観光客の受け入れ先が地元ならではのプログラムを企画し、参加者が現地集合、現地解散する新しい観光の形態。主に都会にある出発地の旅行会社が企画して参加者を目的地へ連れて行く従来の「発地型観光」と比べて、地域の振興につながると期待されている。
キャッシュレス化	現金を介さない取引が増加すること。以前から普及していた給料の自動振り込み、公共料金等の自動引き落とし、クレジットカードを用いた支払いの他、キャッシュカードへの即時決済機能の付加(デビットカード)、インターネット上のみで決済を行うネット専業銀行の利用、電子マネーの普及、携帯電話へのクレジット機能・キャッシュカード機能・電子マネーの搭載などITの進歩によりキャッシュレス化が一層広がっている。
コンセプト	全体を貫く「基本的な概念」のこと。
ジオサイト	地球活動の痕跡が特徴的に表れている地形や地質が存在する場所のこと。例えば、火山地形、氷河地形、沖積地形、風食地形、海岸地形、岩石露頭、鉱山などの地形や、岩石・堆積物・化石のような地質によって特徴づけられた景観が挙げられる。

平成 30 年 2 月発刊

発行：新上五島町

編集：新上五島町観光商工課

〒857-4211

長崎県南松浦郡新上五島町有川郷 720-1

TEL 0959-42-3851

FAX 0959-42-3852

<http://official.shinkamigoto.net/>